京城日報　十四日夕刊

發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社
發行兼編輯人 奥田直毅　印刷人 小川三之介

○國務會議の題目

佛租界事件調停案と兌換券問題

十日國務會議の題目は一、英公使の老西開問題調停案に對し如何に回答すべきや二、中國銀行兌換維持法及び交通銀行兌換の預備的準備其他整頓の件等にして第一問題は支那の面目を保ちて調印に從ふ事とし第二問題中國銀行兌換維持法としては外國銀行に中國銀行紙幣の受入れ謝絶を申込むに決せりと（北京特電）

○佛租界問題と黎總統

黎總統は外交問題の解決に苦心し十日老西開問題に就き段總理より國務會議の結果を報告せる際三國調停に努めつゝある今日體面に關せざる限り妥協解決の外なしと述べ人民の誤解を招き事件をして大ならしめざる樣注意すべしと訓諭せり（北京特電）

○ウ氏の當選を認めず

ヒューズ氏はウイルソン氏の大統領當選を認めず（紐育電報）

○塞軍堂々として進軍

露國公書に曰く、塞耳維軍はセルナ河の屈折部に在る勃軍を撃退し堂々として進軍を繼續すクキ連岡は今や全部塞國の手に歸せり（紐育電報）

○獨水雷艇大部分撃沈さる

露都來電＝露國公報に曰く、去る十日芬蘭灣の砲撃に參加したる獨逸水雷艇の大部分は撃沈されたり（紐育電報）

○英軍のアンクル攻撃開始

倫敦來電＝英國公報に曰く、英軍はアンクルの兩面に對し攻撃を開始したり（紐育電報）

○英軍の數地點占領

倫敦來電＝英軍はブルー、ロンターメル、サンピエール、デヴオンを占領し捕虜二千を獲戰線を深さ一哩方前進せり目下セルを中心として交戰中なり（紐育電報）

◉清會線一部開通影響

＝北鮮地方の經濟に對する＝

清會鐵道中清津蒼坪間の三十二哩餘は五日より營業を開始した、其の開通が北鮮地方に如何なる影響を及ぼすかと云ふに、一言にして盡せば未だ大した事はない、咸北財界に革命を起さすのは清津會寧間の五十八哩が明年の秋全通した上の事である、然し兎に角全線の三分の二に汽車が運轉するやうになつた以上、物貨輸送上、並に商勢に若干の變化を與へ、交通の便益を増す事は勿論である、其一班に就て某々有力者の説を聞く

▲貨物輸送の三系統 先づ物貨輸送上の變化を見るに、通過貨物及び消費貨物を合し一年間清津會寧間に動く貨物は北行乃ち清津仕向八割強、南行會寧仕向二割弱の割合となり、北行は粗布雜貨マッチ食料品を主とし南行は大豆其の他全部の合計約八千噸金額二百萬圓内外と見ば大差はない、而して之等の輸送は從來松本組の經營しつゝある輕鐵並に支那の駄馬及び牛車に依つてゐたが但し牛車中車輪幅員の狹きものは當局に於て既に道路規則により通行を取締りつゝあるから最近は其數を著しく減じてゐる、而して此の輸送割合はトロ五割強、駄馬四割、牛車一割弱と見るを妥當とするも運賃はトロと駄馬とは殆んど相伯仲の間にあり、これが頗る興味ある點だ、初歩の文明的交通機關とは云へトロの運賃が原始的の駄馬賃に相均しいのは奇異である、其の理由は鐵道其他の關係からトロ運賃の比較的割高なのに、駄馬は支那人一人にして十頭以上二十四五頭迄を何の苦もなく御し、然も其一頭には三十貫乃至四十貫の重量を負はしてゐる、馭者は野に伏し山に寢ね粗衣粗食に甘んじ馬には野草を路傍に秣かう、馬の從順な事は實に不可思議な位である、駄馬は斯の如くにしてトロと輸送爭を續け今日迄相下らなかつたのである

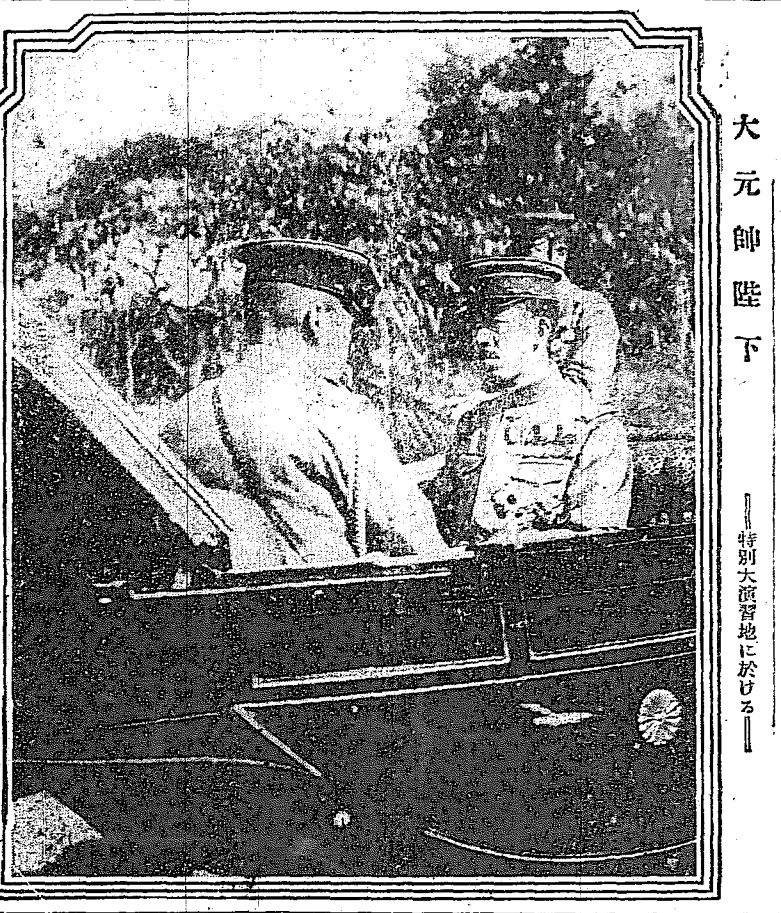
▲結局鐵道の獨占 所で清津蒼坪間は五日より營業を初めた、其の結果輸送系統は悉う動くかと云ふに明らかな變化は（一）清蒼間トロ輸送の全滅（二）駄馬の減少（三）牛車は遂に短距離間のみの輸送となるであらう、何となれば輸送上の安危、運賃の高低は勢ひを前述の如く馴致せねば止まぬからである、乃ち清津蒼坪間普通大貨物運賃を概算すると嘅扱一級品一圓四十一錢六厘二級品一圓五十六錢八厘、三級品一圓七十二錢で之れに清津市街停車場間の陸送運賃を嘅六十錢と見積り加算しても、百二十貫積み一車六圓六十錢の輕鐵運賃に比し二割五分乃至三割に過ぎぬ、若し清蒼間鐵道を車扱ひで輸送すれば尚ほ安くなる、況んや貨物到達の安危同日の談にあらざるに於てをや、宜なり松本組輕鐵部では清蒼間のトロ運轉を今後全部休止の事とし主力を會寧蒼坪間に集むる方針を執るに至つた、但し軌道は陸軍のものであるから尚ほ當分存置し置かるゝであらうと云ふ、それから支那駄馬も鐵道終端驛たる蒼坪を終點とし清津には多く下らないであらう、唯間島より清津に逆る荷物中積み換へ積み卸しを厭ふ特種貨物は或は依然駄馬の便を籍るかと思はれる其の返り荷として清津より若干箱の荷を負はせて行くだらうが其の量は大したものでなく又運賃も自然廉くなるらしい、牛車は愈々窮地に立ち到底長距離の輸送に競爭し能はざるは明らかな理でこれは部落より停車場と云ふが如き短かい間の輸送に任ずべく、斯く觀じ來れば清津會寧間に動く荷物の清蒼間輸送は殆んど全部新鐵道に歸すると云ふて過言であるまい

▲商勢の異動如何 然らば鐵道開通後漸次商業上に起るべき現象は如何であるか、乃ち清津蒼坪間鐵道開通の爲め清會間に動く貨物は運賃が下りそれだけ安く先方に供給する事が出來る、從つて會寧北島方面に於ける需要消費力を増しはせぬか又間島方面より清津に積出す荷物も運賃低廉となる結果數及び量に於て増加を來しはせぬかと云ふ點に就ては積極的に其の然る事を主張する人と消極的の觀測者と二説ある積極論者は必らず清蒼間開通丈けでも運賃減の結果其の荷動きを増すべく又増させねばならぬ乃で商人の多くは嘅積より車扱ひの安い運賃で清蒼間を輸送し一文でも安價に先方に貨物を供給しやうと努めてゐると説き消極論者は運賃低減の度の物價下落に及ぼす影響の未だ少なきを云ひ、それが爲め著しく荷動きを増す程に採算有利ともならず又需要の増加を來しはすまいと語る、兩説共に一理あるが、兎に角移動貨物増加の勢ひを將來に認めた事は一致して居る、唯だ如何なる數字を現はすかは今後の事實に徴する外はない

▲旅客の便利 乘客の便宜は極めて安い乘車賃で速やかに安全に旅行が出來るやうになつたと云ふ事で實際簡單明瞭である清津蒼坪間三十二哩二等で一圓十錢三等六十六錢僅々二時間で行ける、然るに之れ迄はトロに乘つて六七時間も要り賃金は三圓も徴されたのであつた、然もトロは注意してゐないと危險で降雨に出發が出來ず餘り寒かつたり風が吹いたりすると其の旅行の困難は名狀すべからざるものがあるのである、尚ほ清津會寧間鐵道全通後の影響は問題が餘程大きくなり又其の全通も前述の如く六年秋若くは七年の春になるだらうから之れを後日に讓る事としやう（七日清津にて記者）

□觀菊會仰出

天皇皇后兩陛下には來る二十日午後二時宮城御出門赤阪離宮へ臨御各皇族方を初め奉り内外臣僚數千名を御召の上觀菊會を催させ給ふ旨十四日仰出されたり（東京特電）



大元帥陛下
―特別大演習地に於ける―

◉統計主任會同

十三日より總督府第二會議室に於て開催しつゝある各道統計主任講習事務打合會同は十五日を以て終了の筈なるが十四日も前日に引續き午前九時開會財政統計の講習を了り午後は事務打合せありて四時散會したり本會同の打合せ事項左の如し

一、統計思想を普及せしめ並統計事務を整理する手段方法に付ての意見
二、報告例に依る統計報告中改正を要すと認むる事項
三、報告期限を正確ならしむるに付各道の施行せる手段
四、時局柄府郡島に統計委員を設置するものとせば其の登載事項及樣式に關する意見
五、水産に關する統計は他の陸上の統計に比し調査困難なるへく就中報告例第四六一號乃至第四六三號表記載事項は或は調査を誤し或は重複調査を爲せる形跡の認めらるゝもの多し之が正確を期するに最も適當と認むる調査方法
（イ）第四六一號表魚介藻の種類別漁獲高
（ロ）第四六二號表漁業別の出漁船數乘組人員及漁獲高
（ハ）第四六一號及第四六二號以外より漁獲者に關するもの
（ニ）第四六三號表水産製造物の種類別製造高

◉定例長官會議

十四日は定例長官會議日なるより山縣政務總監以下各部長官局長並に所屬官署の長等は午前十時より第一會議室に參會通常政務に就き協議打合せの上正午散會したり

◉支廳判檢事會同

京城地方法院管内各支廳判檢事會同は十二日より四日間地方法院會議室にて岩本地方法院長松寺檢事正の統裁にて開會中なり

◉行務檢査終了

青木商工課長、本岡、野坂兩事務官外五名の檢査官は七日より日々東洋拓殖會社に出張、同社の行務檢査を執行しつゝありしが十三日を以て全部終了したり

◉兒玉伯爵出發

滯京中なりし兒玉伯は夫人同伴十四日午前八時三十分南大門驛發汽車にて退京歸任の途に就けり、同驛には山縣政務總監を始め京龍官民有志朝鮮貴族愛國婦人會員等數百名の見送りありて非常の雜踏を呈したり

◉松木中佐一行

駐劄軍各地守備隊經理視察の爲め北鮮地方守備隊巡視中の陸軍省軍務局附松木中佐一行は十五日元山より入京の筈なるが十六日より更に公州全州大田大邱釜山及び馬山等南鮮各守備隊を視察す可く軍司令部よりは廣瀬經理部長及び千輪副官同伴す可しと

◉京畿道有志代表者

過般京畿道名望家等に推されて一道有志を代表し寺内前總督に對し感謝の意を表する爲め東上したる開城實業家金基永氏は十二日歸還したり

◉鳥居氏の講演

平壤滯在中の總督府古蹟調査委員鳥居龍藏氏は十一月十三日午後四時より平壤箕陽倶樂部に於て大同江畔に於ける有史以前の遺跡に就てと題する講演をなしたり（平壤）

●安河内氏へ記念品 農務課屬安河内武十郎氏辭任に就き同課商等官有志發起となり同氏に對し記念品を寄贈す可く目下氏の知己友人間に醵金の募集中なり

◉商議員補缺見合乎

京城商業會議所評議員たりし石野熊一郎氏は嚢に百合正宗山邑京城支店長より東京本店詰として轉任したるが爲め會議所議員に一名の缺員を生ずることゝなりたり會議所の定款には補缺に關する明文なきため補缺選擧を行ふべきか否かに就ては今日の處決定し居らず併しながら一人の選擧も全體の改選も殆ど同一の手數と費用を要する次第なれば或は缺員の儘來年十二月の總選擧迄待つべしとも傳へられ居れり

◉全國商議大會と朝鮮

全國商業會議所聯合會は來る二十四日東京に於て開會につき朝鮮聯合會よりは目下東上中なる原田京城商業會議所會頭列席すべしと

◉米油入船

亞米利加汽船エンジエン號は約十萬箱の石油を搭載して十二日午前釜山に入港したるが釜山にては五日間限り陸揚なし仁川に廻送する筈なりと（釜山）

＝平壤＝

▲平壤最近戸口 平壤府に於ける十月末現在内地人戸數は二千五百十二戸人口男五千百十八人同女四千五百九十四人鮮人戸數九千八百十七戸二萬七百十九人女二萬七百五十五人計四萬千五百三十四人外國人百五十九戸人口男四百六十三人女百三十六人計五百九十九人にして九月末調査と比較するときは内地人に於て七十四人朝鮮人に於て二百九十一人を増加せり▲雇員採用試驗 平安南道廳に於ては既報の如く十一月十日雇員採用試驗を執行したるが受驗者は十五名にして成績は目下調査中なりと云ふ

＝鎭南浦＝

▲富田氏披露宴 既報獻梁記念碑除幕式は十二日午後三時より擧行せられたるが修祓獻饌後富田氏の碑文朗讀に次いで工藤南道長官、中野南浦府尹西崎鶴太郎氏林毅致氏の順序にて祝辭あり斯くて撤饌後三和銀行階上の披露を兼ね可重にして趣向を凝らせる野外宴を開きたるが歡談暢語數刻にして別に隣接地三和園に設けられたる模擬店に散襲各自好む處欲する處に從つて歡樂を盡したるが園内別に舞臺の設けられたるあり選拔の檢番藝手を窮して舞ひ祈納滿園の紅葉夕陽に映發して美觀云ふばかりなく最も喝采を博し黄昏に亙り漸く散會せり當日は南浦を中心として中國廣梁灣其他各地よりの招客二百名を敷へ空前の盛況を呈したるが夜に入り花山座に於て折節開演中なりし新派劇を當日の招客並に其家族に向つて開放滿員の盛觀を呈し斯くて十二分の滿足を來賓に與へ成功を以て終局を結びたり

＝仁川＝

▲小麥益々好況 從來供給を受けつゝ有りし小麥粉は戰爭の結果反つて輸出するに至りし爲め最近に至り氣勢益々強し、黄海道方面より仁川に廻著する者非常に増加し十三日の如きは六七百叺の入津ありたる程にて相場も自ら昂騰しつゝあり製粉は八圓二三十錢にして先月に比し約一圓五十錢高なりと ▲商品陳列場新設 仁川商業會議所にては商業の開發貿易の増進を計る目的を以て來年一月一日早々會議所附屬建物内に農産物及び園藝品、海産物、化學工業品、製造工業品、鑛産品、食料品其他參考品を汎く蒐集陳列し一般公衆の縱覽に供する由なるが出品者は危險又は腐敗し易きもの若くは他の出品物に損害を及ぼす虞ある者風俗又は秩序を紊す者容積過大の者等の外は出品及び寄贈する事を得陳列料は間口二尺奥行三尺にて階下五圓階上四圓を徴收すべし而して商業會議所にては出品者の希望に應じ陳列品の市價運賃關税其他取引上に關する必要の事項を調査報道し且つ新製品の取引につき試賣の紹介を請求する者ある時は其の勞を執り以て殖産興業及び貿易の便益に資す可く既に仁川市内各貿易加工業者の出品申込者數十名に達し場内陳列棚の如きも數日前完成しあれば遲く共來月中旬には全部陳列濟みとなる模樣なるが開館を大正六年の年頭に行ふ筈にて目下準備に忙殺されつゝ有り▲支那漫遊講演 商業會議所議員大石末吉氏は十四日午後一時より仁川商業學校に於て支那漫遊講演をなしたり

＝大邱＝

▲聯隊工事近况 大邱第八十聯隊兵營工事は其後著々進捗し十三日調によれば兵舍三百七十四坪は八分の工事を進め炊厩所八十五坪は九分、將校集會所百六十四坪は八分強、被服庫百十一坪兵器庫百二十五坪は九分五厘、聯隊本部百八十三坪は七分、彈藥庫三十六坪は九分九厘孰れも工事の進捗を見第一期工事竣成期十一月末迄には完成を見るに至る可しと ▲慶北出穀數檢査 慶尙北道穀物輸移出穀物改良組合各地檢査所檢査にかゝる十一月一日より十日に至る檢査は玄米總叺一萬五千二百三十六大豆總叺二萬千五百七十六にして目下大邱地方に於ける玄米神力上物十一圓五六十錢を上下し大豆八圓九十錢乃至九圓の相場にて買手あれど大豆は品不足の爲め底意強く出荷不足の狀況にあり ▲龜尾米穀檢査開始 京釜線善山郡龜尾驛は去一日より開驛したるを以て慶北輸移出穀物改良組合にては同日より檢査所を開始せしが十日までの成績は玄米九十四叺大豆百八叺開始當時としては成績良好の方なりと ▲邱浦自動車遞送解除 從來大邱浦項間郵便物は自動車を以て遞送しつゝありしも斯くては普通旅客の不便少なからざるを以て大塚自動車部は其筋に向て是が解除方を請願せり ▲慶北計理講習會 慶北憲兵隊にては十四日より一週間の豫定にて管内分遣所、分隊員を本部に召集し計理講習會を開催す

人事消息

▲國野貞氏（工學博士）十四日朝入京巴城館へ
▲山崎之英氏（工學士）同上天眞樓へ
▲石川鵬吉氏（平壤典獄）同上不知火へ
▲阪上貞信氏（勸業模範場技手）十四日朝退京
▲野口新三氏（土木局元山出張所長）同上
▲佐々木清綱氏（釜山辯護士）同上
▲有田勉三郎氏（臺灣銀行京城支店長）十三日午前高麗丸にて著釜同十時三十分發北行列車にて長春へ向け出發す（釜山）
▲木尾虎之助氏（代議士）十三日午後發大邱へ
▲谷口朝次氏（長城在鄕軍人分會長）十四日午前入京大和館へ
▲井上義助氏（陸軍步兵大尉）入京中の處十四日朝退京
▲大澤藤十郎氏（群山商業會議所會頭）十三日夜入京浦尾へ
▲淵野孫彦氏（兵庫縣代議士）十三日入京浦尾へ
▲アブロスキー氏（元淸津駐在露國領事）十四日朝元山へ
▲頼義則氏（黄海道長官）十四日朝出發歸任
▲ミラー氏（京城駐在米國領事）十三日午後濟物浦より歸京
▲梅香橘氏（大阪朝日通信部主任）十五日朝出發上阪
▲堀江吉之助氏（東拓文書課長）十三日夜東上

○無佛居士の轉居を祝して　靈洲
廢詩移居南山に菊の枯らびたる
鉦に降る落葉の中の藥師堂
老蜂菊あり舊居復た問ふ勿れ

大演習兩軍司令官(上)地圖を按ずる井口北軍司令官(下)大本營へ伺候途上の大迫南軍司令官

陸軍特別大演習

▽喊聲、輦下の朝霧を衝いて起る

博多灣頭兩軍最後の善戰

十四日は大演習最終日にして最後の決戰は正平の昔菊池、足利兩軍の古戰場たる多々良河畔に於て午前七時より開始せられたり演習第一日以來勝に誇りたる南軍は左翼なる柴勝三郎中將の久留米

□第十八師團を箱崎より原町の線に展開し右翼なる明石中將の熊本第六師團を東方篠栗線に沿ふて配備し中央仲原に一個旅團の豫備隊を伏せ北軍の中央を突破せんと圖れり北軍は右翼なる小原中將の廣島第五師團を蒲田過木の高地に展開し豫備隊を江辻山に配備し機を見て攻勢に移轉し南軍を博多灣に驅退せんとす此日曉霧深く

□一帶の山野を罩め全線二里に亙る戰線には殷々たる砲聲濛々たる銃煙潮の寄するが如き喊聲と相和して天地爲めに震駭す殊に御野立所附近は兩軍主力の大混戰地にして多々良平野は忽ち修羅場と化し壯快言語に絕す然るに南軍は北軍の左翼なる柴五郎中將の小倉第十二師團今屋少將の第十二旅團に包圍せられて頗る

□苦境に陷りたるに剩へ御野立所の高地新長者原の南軍砲兵陣地を奪取せられ了れり殊に目覺しかりしは北軍第十二旅團にして今屋旅團長の如きは陣頭に立ちて眞先きに多々良潟を徒涉し氷の刄を振つて敵陣に突入せり斯くて數次の猛烈壯快なる白兵戰ありしが午前八時三十分休戰の信號氣球高く空に昇り茲に

□戰戰まりて 多々良邊の平野は再び元の靜寂に歸しつゝ此の戰に於て南軍砲兵は其の陣地を箱崎附近に選定したるが其の位置良好ならず且霧深くして視界を妨げたる爲め終に大なる不覺を招けり審判官の言に依れば銃砲數萬加ふるに空には飛行機の飛翔するあり地には自動車の驅馳するあり斯くの如き壯快なる演習は未だ

□嘗て見ざる所なりと斯くて四日間に亙る筑肥平野の大演習は茲に終局を告げ天皇陛下には御馬車にて粕屋郡立農學校に御休憩後午後一時より御講評あり勅語を賜ひ同三時大本營に還幸遊ばさる、御豫定也(十四日午前十時七分長者原にて一金谷特派員發電)

▽鵬翼、月光を浴びて

七千燭光の照明彈投下

演習第三日(十三日)午後南軍飛行機は一碧の秋空に互に入り亂れて盛んに爆彈を敵陣地に投下し壯烈なる空中戰を演じたり而して北軍と多々良河を挾んで露營せし南軍は夜に入りて更に其の二飛行機を飛ばして敵陣地の偵察を行へり月光水の如き博多平野の空に機上より投ずる七千燭光の照明彈は一彈又一彈光芒白晝の如く眞に壯烈快烈なり(十三日午後九時五十五分箱崎局にて金谷特派員發電)

◉實業家御召見

十三日午後二時四十分福岡縣下實業功勞者左記十八名に對し御召見難有御沙汰を賜はれり(福岡にて特派員發)

遠賀郡戶畑町 安川敬一郎
嘉穗郡飯塚町 麻生太吉
糟屋郡宇美村 小林作五郎
築上郡友枝村 大森武雄
遠賀郡戶畑町 杉本健次郎
嘉穗郡大谷村 中野德次郎
同郡同村 伊藤傳右衛門
鞍手郡直方町 堀三太郎
久留米市日吉町 國武喜次郎
同市通町 本村庄平
三井郡山川村 宮安猪三郎
同郡味坂村 田中新吾
糸島郡北崎村 寺田源三郎
三井郡國分村 赤司喜次郎
久留米市米屋町 倉田雲平
三瀦郡三叉村 中村綱次
久留米市苧扱川町 石橋德次郎
小倉製紙會社長 萩原弘

▽岡村大佐の光榮

御手元に留め給ふ蒙古來襲模型圖

岡村豫備役大佐の御前講演に用ひたる蒙古史跡の模型圖は福岡市大工町豫備役步兵上等兵泊仙次郎の製作なる旨奏上せしに叡感斜ならず御手許に止め置かる旨御沙汰あり大元帥陛下の在鄉軍人を思はせ給ふ大御心畏しとも畏し(十四日午前十時五十八分長者原にて金谷特派員發電)

岡村大佐

▽岡村大佐を訪ふの記

九州大演習第三日目の御野立所に於て光榮ある御前講演の大命を承つた岡村豫備步兵大佐の家は福岡地行東町にあるがチンチク竹の生垣に沿た

□大佐の邸には 今しお祝ひ客が一人あつたが靜かな庭には八重の山茶花が咲いて居る、額には拜山の文字がかゝうて床には大弓の矢が樹てられてあつた、大佐の鬢にはモウ白髮が見ゐるが只管恐懼に堪へずと謹んで居た『實は昨年糸島といふ所の元寇防衛の石壘の址に記念碑を建てまして少々元寇來襲當時の史蹟を調べましたが

□這回の大命は 夢のやうに思ひます、昨年は愚息が奈良聯隊で御前試合の光榮に浴しましたが這回も身に餘る光榮と存じます……』と襟を正す、傍には鬚の老人が齋戒沐浴して史蹟調査の机を淸めつゝあつた(十四日午後二時特派員記)

◉平北道長官更迭

◉會社員と名乘つた賊 全羅南道麗州郡東內面生れ金漢宗(三十)は去月六日……

◉連絡船上監客 十三日午前……

◉潛水艇第四號艇の奇禍

汽罐爆發して將卒死傷す

吳鎮守府所屬第一潛水艇隊は太田司令官引率の下に神戶よりの歸途十三日午後三時半香川縣小豆郡內海灣南方十哩の所にて第四號艇の汽罐爆發し上等機關兵曹河合均水兵金崎良太郎は行衞不明となり渡邊中尉外六名重傷を大野中尉外七名は輕傷を被れり原因は瓦斯の爆發に依りしものなりと(大阪特電)

▽供御の鮮魚

陛上御駐輦中御料の海產魚類は總て福岡縣糟屋郡志賀島の東岸に畜養中なりしが九、十兩日の大風に玄界灘の怒濤は山の如く數條の大綱忽ち切斷せられ御料の鯛は僅かに一條の網に依りて保たるゝに至りしを以て同島青年漁夫百五十餘名は逆卷く怒濤と闘ひつゝ必死繫留に努めたるの結果幸に事なきを得て日々の御用を缺くことなく鯛其他の鮮鱗潑溂として常に宮內官の滿足を仰ぎつゝあり(十三日金谷特派員發)

◇博多人形の獻上

◇伏見、閑院兩宮殿下へ◇

福岡市に御滯在中なる伏見宮、閑院宮兩殿下に福岡市下小山町白水六三郎より博多人形各一個獻上方願出たるに依り十日谷口福岡縣知事は同品を獻上したるに兩殿下には御嘉納あらせられたり右人形は逆澤潟縅の鎧に洗朱の垂衣を著し菊池武房が今津元寇防壘上に安坐し敵の來襲を遠望しつゝ兵を指揮せる處にして却々見事に出來上り居れりと

◉亞米利加丸に疑似虎列拉

大阪商船會社臺灣航路汽船亞米利加丸は十四日朝神戶より門司に入港せるが大阪より乘船せる三等客滋賀縣人林しづ(三)は疑似虎列拉に罹りたるを以て該船は同港に假停船を命ぜられたり(門司特電)

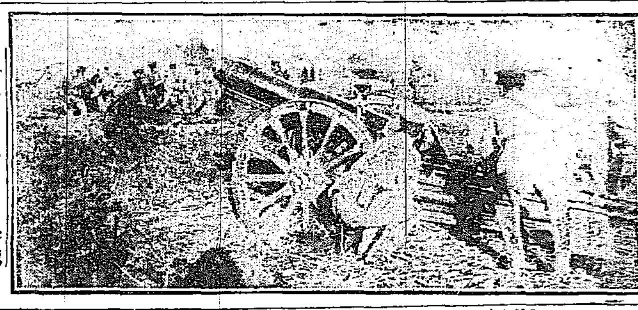
◉十四日の朝は零下五度の寒さ

例年より酷しい

此の四五日素敵に寒く殊に十三日夜から十四日の朝にかけて俄かに寒氣が加はつて待ち構へてゐた冬が一時に襲つて來たかと思はれる程、庭先を彩どつてゐた草花などの悉く凋んでしまつた所もあり室外には厚氷が張つた所もあつたが之れを京城測候所に聞いて見ると十四日の朝の氣温は零下五度平年の同日同時刻が氷點以上五度であるのに比べると十度の相異がある、しかも十二日は平年と稍同じだつたが十一日は矢張り平年より寒かつた、但し此の頃の寒氣は日本海、太平洋附近にあつた高氣壓が朝鮮附近に現はれて來たので二三日來の寒さを見たのだが、之れは全く一時的現象で之れを以て本年の氣候を豫測する事は出來ないさうである

◉豪遊せる大賊逮捕さる

京城大和町一丁目某下宿屋止宿佐賀縣西松浦郡有田町生れの田村義雄又は田中廣次事佐々木光次郎(三)は九州にて二回入獄して滿期出獄後渡鮮入京し十一月一日午後八時頃大和町一丁目山形某方家人の不在を見て炊事場戶口の鎖前を捻ぢ切りて侵入し衣類十三點(百九十八圓)を竊取したるを手初めに同樣手段にて南米倉町渡邊衣類十九點(八十四圓)旭町二丁目財田現金三十圓、本町四丁目宮下衣類六點(五十八圓)永樂町二丁目平山衣類二點等を竊取して何れも僞名にて各所の質屋に入質し新町遊廓すみの家、壽、第二元標等にて豪遊し倚龍山彌生町二見樓抱娼妓さつきを敵娼として深く馴染みゐたる所を本町警察署の棚橋刑事に探知せられて此程檢擧されたり



北軍下關重砲兵の奮戰

◉談合事件第二審判決

小林龜割以外は執行猶豫

豫て控訴中なりし小林長兵衛以下十七名に對する京釜鐵道工事請負談合事件は十四日午前十時半大邱覆審法院に於て左記の通り判決言渡しありたるが此の內檢事の控訴棄却し無罪となれる岡田金之助を除く外は直ちに上告の手續き中なり(大邱特電)

無罪 檢事の控訴は之を棄却す 岡田金之助

津田辰次郎　今村行平　高原與吉　澤重兵衛　柴田令五郎　福村篤
片村庄二郎　浦田多喜人　岩瀨靜　土屋慶壽　佐藤眞一　須々木權次郎
三島辰一　兒玉孫　山崎甚八

右各懲役六箇月 但三年間執行猶豫

右懲役六箇月(一審同樣) 龜安 安藏

右懲役七箇月(同上) 小林長兵衛

◉電車から飛下りて重傷

十三日午後七時頃京城電氣株式會社の十三號電車が南大門通五丁目笑福旅館前を進行中乘客なる黃金町三丁目居住安田いわ(五)が飛降りを爲して打倒れ後頭部に深さ骨膜に達する打撲傷を負ひ人事不省に陷りたる驛前本町署の警官驅付け車掌と共に相助けて小川醫院に擔ぎ込み應急手當を加へしが腦震盪の爲め頗る重態なりと

◉河豚を喰ふて自殺

仁川署管內永宗面倉邑里船乘業吳元濬妻鄭氏(四)は赤貧にて家計不如意の結果姑安氏との折合兎角面白からざりしが去る十日午後六時頃姑と家事上の事に就き口論をなしたる揚句面當に河豚の干卵子を多量に食して自殺を遂げたる旨最寄駐在所に屆出でたれば係官出張檢視の上屍體は家族に引渡さる

◉電車に轢かる

十二日午後二時頃慶南東萊發南行二號電車が釜山へ向け馳走中左水營を距る約五丁の個所にて軌道を橫切らせる四十五六歲の鮮婦人を轢き卽死せしめたるが轢死者は何處の者とも判明せざるを以て東萊府廳へ引渡し假埋葬に附し車掌運轉手は其筋に引致せられ取調べを受けたり(釜山)

◉大同江で溺死 平南大同郡古平面中瑞里金利煥(三)は去る十一日平壤龍路里大同江江岸通行中過つて墜落し溺死を遂ぐ

◉眞正と決定す

大邱明治町二丁目百三十三番地李濬元の長女李玉妃(四)は十一日來疑似症として治療中なりしが遂に死亡し十三日檢鏡の結果眞正と決定せり(大邱)

◉一萬圓遺產爭ひ

相續人の兄弟を訴ふ

忠北永同郡永同面稽山里居住亡西田銀次は資產約一萬圓を遺して本年夏頭病死したる後相續人なる同人倅西田淺次郎及び銀次が生前同棲しゐたる塘添かもとの間に遺產爭ひを生じ其結果公州地方法院にて遺產引渡し請求の訴訟沙汰となりて紛爭中斯くては一家の面目にも係る事なるより親族及び知己なる本鄕久吉外七名が仲裁することゝなりて雙方共捺印一應事濟みとなりたるも其後塘添かもは不服を唱へ右仲裁の決議は取消して無効の宣告ありたき旨公州地方法院に提訴したるも其の訴訟は理由なきものとして棄却されたるより更に京城松本辯護士を訴訟代理人として京城覆審法院に控訴せり

滯京中の御厚情を謝し奉る

大正五年十一月十四日

兒玉秀雄
同　澤子

讀者文藝(一等には五十錢の商品券を呈す)

▽一口噺

○少女の擊劍試合を見た熊公『こんな事を敎へるから亭主は頭が上らねえんだ』(一等) 義州城內 久住松月

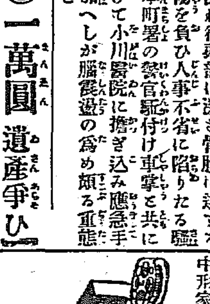
▲讀者『百萬羽の雀を捕獲したと新聞に出てるよ』 投作『ジャア今年は鳥が安いだらう』 龍山 松本生

▲讀者『雲右衛門が來たそうだ』 與太『あゝそれで昨日は雨が降つたのだなあ』 京城 上野生

▲文展に出掛けて『北野』の前に立つた與太『ナーンだ、北野と言ふから美人かと思つたら老婆だな』 京城 白樂天

◉課題募集規程 ▲用紙は半紙又は……の洋紙一枚毎に紙上雅號又は匿名の外に住所氏名明記の事……

天氣 北又は西の風晴れ 十一月十五日



活動寫眞器械各種

中形家庭用青年會用活動寫眞幻燈兼用器械拾圓以上同小形七圓寫眞附各種

活動寫眞器械百圓以上各種其他◉常設館寫眞提供◉巡業隊出張◉出張映寫フィルム撮影

◉幻燈器械各種 映畫◉教育◉衞生◉軍事◉宗教 地理◉科學◉滑稽◉農事◉史劇 風景◉風俗◉最近諸出來

▲目錄表呈す(送料二錢切手封入の事)

大阪市新町通二丁目(振替一九三三) 寺田清四郎商店 電話一四三二番 一四三三番 博多(電八七九番)寺田九州支店

緊急廣告

明十五日午後三時半より四時迄の間瓦斯本管工事の爲め「龍山を除き」京城一圓一時瓦斯供給遮斷致候に付此段廣告仕候

大正五年十一月十四日

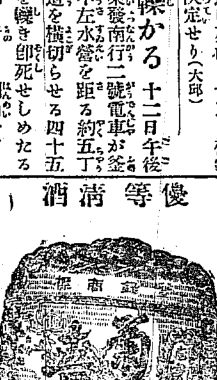
本町二丁目 京城電氣株式會社

苗桑

桑苗、市平、高助、其他各種、骨桑質 生(純粹保險)接木用實生及穗木 豫約請合 一貫需

大田 東蠶社 長電話百〇七番

優等清酒



福岡縣三井郡山川村 醸造元 富安本店

京城永樂町二丁目 發賣元 富安京城支店 電話四〇三九番 振替口座四三九番

見て優美!!! 穿いて滿足

強くて温かい 日本一の 鬼足袋

販賣御希望の方は御照會なさい 見本一足 金四拾錢(郵券不苦)

東京市日本橋區小傳馬町 寺田淳平商店 電話浪花二〇〇二番 二〇〇一番

內科 胃腸病 診察夜九時迄

京城本町一丁目 石川醫院 電話一二三七 二九〇九番

依願免本官
任平安北道長官　總督府事務官　藤川利三郎

……軍服類を竊取して拘禁せられ十一日釜山地方法院に於て懲役一年の言渡を受けたり（釜山）

蔡鍔は何處が偉いか
行届いた雲南の施政＝今井博士談

■雲南護國軍の主將蔡鍔氏は雲南より北京に來り目下グランドホテルに滯在中なる前軍務院顧問法學博士今井嘉幸氏は往訪の記者に語つて曰く

蔡鍔君が死んださうですね實に惜しい人物を亡くして殘念です僕が今度雲南に行つた時には既に蔡鍔は第一軍を引率して雲南を出發した後で手紙の往復は度々やつたが親しく語るの機を得なかつたのは頗る遺憾とする處である僕が雲南に到着して感心したのは教育は勿論のこと道路に至るまで

◇立派に改造 されて居た殆んど理想に近い政治が行はれて居たと云ふことで戰禍の中でよくも斯く施政が行届いたかと驚いだ位である殊に舊物破壞と云ふことに全力を注いだ傾向が明かに見られて廟の如きは殆んど破壞され若し破壞を免れて居るものは皆學校になつて居るこれは何も迷信打破と云ふが如き宗教上でなく雲南は從來淫祠な處で之等廟の中で男女が盛んに密會をしたさうだから風俗矯正の上から大英斷をやつたので今では雲南に廟なしと云つても過言でない位である蔡鍔は

◇四川の産で ありながら雲南人から神の如くに崇拜され慈父の如く慕はれて居るそれは善政を施く故でもあらうが此人は年に似合ぬ餘程の偉物で自然人から尊敬を受くる一種の威力を備へて居つた而して軍事上の智識に對しては餘程自負心があつたと見へて今度の戰爭にても何人の援助も受けず獨力で指揮した手際に至つては凡物の成し能はざる處がある蔡鍔は日本の士官學校に學んだ人であるが或人に向つて日本や歐洲の戰略は所謂平野の戰法であつて山岳多き

◇蜀の方面で は用をなさぬと語つたことがあるそこで自から蔡鍔兵法なるものを作つて發表し雲南の新聞が連載したことがある斯くの如く蔡鍔は日本及び歐洲の戰術と蜀より出でて天下の心臓を寒からしめた諸葛武侯の戰略とを折衷して新たなる兵法を作り雲南、貴州、四川等の即ち蜀の地に在りて天險地利を應用し退嬰的の重鎭となつて敢て中央に出でず南北確執の時には出でゝ調停をなし超然として天下を威嚇せんとする積りであつたと思ふ第一第二の革命の際に於ける

◇彼の行動は 絶ず此見地から割出されたやうに考へらるゝ點が多いやうだ何にしろ人物拂底の支那が得難き此青年を亡くしたのは惜しみても餘りあることである（北京特信）

京城繁昌八景―(四)フランス教會

爽かな朝の空氣が罩めてフランス教會の鐘が鳴渡つた、御堂内にはもはや白衣の人々が一ぱいつめかけて居る、正面の壇上には數十本となくあかあかと灯がともされた、やがて堂内左右の入口から更らに灯を捧げる數人の信徒が靜々と歩み進め灯を神前にそなへてこゝに朝の祈りははじめられた、善男善女恐く頭を伏して今日の幸福を祈て居る、朝の光りはステンドグラスを通して白衣の人々を紅に黄に青に彩つた、夢の樣なかすかな祈禱の聲は室に流れて一種神秘の氣に滿ちて居る。幸多かれ。―とみ―

神社とお寺と教會

◎國柱會京城局（初音町）十五日午後七時より定例修行後伊東講師の『如説修行抄』の講義に次で一般會員の日蓮主義に就ての討論會あり
〇東本願寺（南山町）十五日午前十時より御命日の説教並に信友會の『歩船鈔』の講演あり今回は大谷氏内地歸還につき同氏は休講の由
〇西本願寺（若草町）十五日午前八時午後一時同七時半より報恩講あり朝は松原深諦師夜は松原深諦氏及び花岡師の説教及び講話あり
〇京城基督教青年會 十四日午後四時半より同志會の校友會ありたり
〇京城基督教會 十四日午後七時半より基督教講演會を開き講師牧野虎次氏の『日本國民性と基督教』あり

今が萬年青の植替へ時
方避けの吉例―萬秋の培養法―土の選擇

萬年青は方除けと云つて誰の家にも植て居る、此の習慣は昔時徳川家康が三州から江戸城移轉の時愛養して居た萬年青を携へ途中鎌倉で麾下の諸將に盃を與へる際園に萬年青を並べたのが

◇方避け の吉例となり昔の江戸の習慣が今日の東京に傳はつて居るとのことであるされば萬年青は昔から盆栽として培養して居る夫れを萬年青は日本の

◇草花中 培養が最も發達して居る、或る種と或る種との化合で種々の變り物を出す其手際に外國の草花屋などは驚いて居る、培養法は決して困難なものでない、放り出して居ても枯れる樣なことはない、寧ろかゝつても

◇霜に打 たれても一度葉は萎れることがあるが其時は水を呉れてやると直に蘇生するもので、手の行き届く人は春秋二季に植代をする、然し

◇面倒と 思へば秋季一度の植代でも滯になると綺麗な芽が出て、床の置物などには適當したものである、植る代る時は叮嚀に白根を一本々々能く筆の先で洗つてやる

◇根株に 一種の黴菌が附著して赤くなつて腐敗して來る、其處は綺麗に切り取つて置かないと、段々腐がつて發育を害し、綺麗な葉が出て來ない、遂に之が原因となつて

◇枯死す るから大に注意せねばならぬ、深く腐敗が喰ひ込んで居る場合は葉の落元まで切取つて決して枯れることはない、萎は三月の彼岸までに

◇植代へ るがよいが秋の植代は十二月でも決して構ひません、丁度今頃は植代の好季節である、培養土は京土と云つて鼠糞大に丸ろめたのが大中小とある炮烙で

◇焙つて 水をかけても解けない樣にしたのがある、然し自分で赤地でも黒地でも山から掘出して日光に晒したもので充分である又砂利植と云つて内地の參州産の

◇白砂利 で植るもよいが夫れでは一日に四五回水をやる手數があるので暇のない人には土植の方が世話なしである、又肥料が過ぎると、根株の腐敗する恐れがあるので、最も薄い

◇油粕の 腐敗したのを與へた方が安全である、夫は春になつてから芽を吹き出す前がよい、四季とも青々した葉があるので室内の置物として結構なものである

商況

東京株式特電
諸株反騰を呈す　十四日　前場寄付　大引
日本郵船、東京電燈、鐘淵紡績、同新株、日本石油、東株、同新株、東新第一、東新第二 [illegible]

債券現物特電
十一日出來値段（前日との比較）
東京五分利、甲號五分利、東京市債、朝鮮事業、朝鮮鐵道、南滿洲鐵道 [illegible]

公債直取引
十四日出來値段（前日との比較）
五分利、四分利、甲號五分、四分、五分 [illegible]　九九、九〇

深川在米特電
十四日現在高　内地米、朝鮮米、臺灣米 [illegible]

東京期米特電
十四日前場　寄付　高値　安値　引け
一月限　六六七、六六六、六六七、六六四 [illegible]

大阪株式特電
銘柄　十三日　前場　後場
宇治川電氣、神戸電氣、京都電燈、山陽紡績、和歌山紡績、同新株、合同紡績、鐘淵紡績、大阪商船、同新株、東洋紡績、大日本麥酒、日本郵船、阪神電鐵、大阪鐵工、東京株式 [illegible]

大阪三品特電
十四日前場　十一月限　十二月限　一月限　二月限　三月限　四月限 [illegible]

大阪期米特電

下關期米特電
十四日前場　寄付　中限　先限 [illegible]

雜報

●金市類の大波瀾　米棉安と綿糸の暴落より一部思惑筋の狼狽投物を喚び遂に漸落を告げし大阪綿糸相場も十三日は午前中三銘現物六圓三十錢より午後に至り六圓四十五錢を報じ
◇三十錢高を移　せしなど波瀾甚だ大にして市場の混亂甚しきと共に
◇大氣迷　ひにある物も當地の成行きも會社側は依然冷靜に構へ建値の維持に努めつゝありと雖も市中の人氣は之が爲め動揺し賣人は何れも如く此際賣らんとせし安値物を買はんとすれば高き爲め取引は閑散なる物を賣らずして何れも値段の
●随所に賣物現はる　筋は前日一段の安値を擱まんで底値を見る觀にて
一百七十一二圓
●内地製粉市況　界は英國向に輸出せられ居れる商談成立し其後模様は何れも好く相場は數日前に漸移せり

下關相場
〇大小豆は頭重し　稍品ともに賣人の手にあるもの多く…
●鍋釜類好賣行　鉄類は昨今鍋不勞の傾きなりと雖も之を原料とする鍋釜類の如きは地方の注文今尚引きも切らざる有様にて其賣行きは例年に見ざる好況を呈し京仁の窯業者は常に之に逐はれ居れるが内地製造業者も各方面よりの注文にて…
●價格を引上げ　三四分方
●生果類良好　…産入荷柑橘の奏となり昨今朝鮮産も…
●澱粉行悶へ　一時は大活況を呈し遂に十四圓を突破して十五圓臺を出現せしめたる…高値を出せる爲め一般に高値の念を生じ警戒せる結果が…
●十七圓位の處に　寧波白棉にて三國相場として尚下落せし銀塊は昂騰せるを以て本望み薄く此處一寸一服の有様なり
●支那棉は一服　高に煽られ破竹の勢を以て昇騰せし支那棉は相變らず現品薄を訴へつゝあるも米棉の反動安ありたる爲め氣勢を挫かれたる…當地に於ても昨今例の値上り問題喧さに上りつゝあれども…今回の値上は左程大ならざるべく要は市場の人氣に附隨せんとするの意嚮なるが如しと

仁川米豆取引所仲買人　三白仲買店

●石油は好望　大口對支輸出にて品薄を訴へつゝある處の石油は發動機用として更に内地需要加はりたる爲め内外相場は引締る事とて小口ながら商談頗る活氣を帯び來れるが…
◇全く沈滯に歸し　…
◇英國其他への輸出も引續き行はれ…

京城正米
依然保合居れり　…
南大門の廻穀
仁川現物市場
釜山市場　十三日
生魚市場
仁川期米
▲十四日前場　大阪天候晴天　前寄十六圓六十錢　昨止より六錢安の入電二節六十三錢三節六十九錢五節七十錢と高移…八節六十三錢と安移…
市場零聞
▲依然動かず　…
▲存外氣乘薄
▲前場の手振

▲保合破れ如何
▲の商内
▲薄商内氣迷ひを生じ存外
▲今筋の態度
▲八千石ある古米は約一萬七
▲意外の損害
▲策の多き同筋

確實　迅速　仁川海岸町　取引所仲買人　廣澤正太郎　電話一六五番　一六〇番　六三二番

東京米報
頃日來東京市場に於て正米業者主に定期の賣方等各地に…

仁川米豆取引所
十四日の一月限
前場　寄付　高値　安値　止め　出來高
[illegible]
平均値段
一節　二節　三節　四節　五節
賣買取組高
十一月限、十二月限、一月限　前日と比較

青物市場
ホウレンソウ、サツマイモ、アカメイモ、ナガイモ、ツクイモ、クワイ、レンコン、ゴボウ、ダイコン、タカナ、ナツバ、ヘタサイ、タマナ、シヤクシナ、ブドウ、フヂマメ [illegible]

商業登記公告
支配人解任　一、大正五年拾壹月五日支配人朝鮮皮革株式會社　主人　…
一、支配人選任　…京城府鳳翼洞…朝鮮皮革株式會社支配人…
右大正五年拾壹月拾參日登記
京城地方法院永登浦出張所

謹告
當社出張所龍山に置き土木營業致居候處今回撤廢候に付此段謹告仕候也
東京市京橋區三十間堀三丁目五番地
久米合名會社

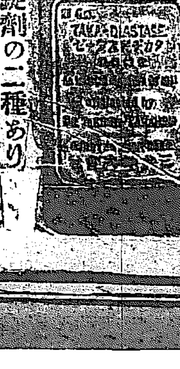
廢業廣告
小生儀從來當地に於て土木請負業營み居り候處感する處あり今般廢業致候間御禮旁々謹告候也
京城府榮町五番地
龜割安藏

米　期　大阪堂島米穀取引所仲買人　曾我商店

小資本にて金儲け現る　新案登錄器械にて活動寫眞の興行が…　大澤商會　東京淺草

廣島名産　山まゆ織　高橋光時商店

最上醬油
京城本町三丁目
田中支店釀造
電話七六四番

タカヂアスターゼ

高峰博士創製の本劑は從來北米及英國にて製造の品を販賣し來りたるも今回本邦に其工場を設け純國産品となれり類似模造品を本劑と同一强度又は同一効力ありと稱し販賣するものあり注意を乞ふ
本劑は粉末及錠劑の二種あり本會社發賣のタカヂアスターゼは總ての胃腸患者に賞用せらる殊に本邦人に最も多き澱粉消化不良症に起因する諸症に用ひて卓效を奏し從つて能く其營養を增進す
東京室町　三共株式會社

消毒兼化粧用　アルボース石鹸

★　資本金　五百萬圓　頭取　安田善三郎
株式會社　百三十銀行京城支店
京城本町壹丁目　電話長五八番　振替貯金京城一九一六番
銀行一般の業務精々御便利に御取扱申候爲換取組先は内地各方面並朝鮮樞要の地に有之候

各石炭　木材　煉炭　セメント
合資會社　中村組平壤支店

宮本武藏

第二百十六席　桃川如燕口演　浪上義三郎速記

宮本二天は此の寺へ今夜は泊めて貰ふと臺所口へズッと入つて來て 二『許さつしやい』 坊『ハイ、何誰だネ』とデク〳〵肥滿た年齡四十ばかりになる坊主が出て來た 二『手前共は旅の者で儒者と畫工の二人だが行き暮れて難儀をいたす、別に何も要らぬ只露を凌げば宜しい、一泊を許して貰ひたいが何うだ泊めて下さるか』 坊『あ、遠慮はないから泊らつしやい乃で見たら別るだろうが此通りの打毀れ寺、何にも進せる物は無いが

をするとんだ迷惑をする、驚くと限があると云ふは其のことだがそれも念の爲にって然うとも云はれない、理はつて置く、さア〳〵上らつしやい、話し相手が無くて、退窟をして居る處だ、お前方は諸國を歩かれた中には定めし面白いこともあらッしやらう、珍しい話しを聞かして貰ひたい』と坊さんは大層喜んで居る樣子、足を洗つて座敷へ通つて見ると疊は切れて藁が出て居る壁は落ちて穴が開き天井なども落ちて居る樣子

支度は何處かでしてござらしッたかな 二『先刻充分に支度をいたした別に欲しくはない 坊『それなら結好だ夜冠りの物も無いが其の邊は承知だらうね 二『モう諸國を修行して歩き、野に臥し山に寢ね左樣なことは慣れて居るから夜冠りなぞは要らん、此儘で差支はない 坊『然うかね、こんな毀れた寺でも未だ屋根があるから甚麽雨が降ても濡れる氣遣はない夜露を凌ぐだけで宜いと云はつしやるなら、サア〳〵其處に穿物があるからそれを持て右手へ行くと井戸が上らつしを洗つて上らつしやい、ダガ斷はつて置くよ這麽荒寺だから隨分夜中に驚くことがあるかも知れないが、其の邊は跡で彼是云はれては困る 二『ハヽア驚くこと 坊『何に構はなければ差支はない、然し構ひだて

驅て坊さんが爐に火を焚て濁酒を煖めまして グビリ〳〵と飲ながら 坊『全體一杯進せるのだが、足しない酒だによつて、お前方には上げないから 二『俺は素より酒は好ます、左樣なものは要用は無い 坊『それはまア結好だ、然し他人に見せて置いて飲んだり喰たりするのは何だか厭なものだからな、元々酒が嫌ひと云ふなら拙僧も安心をして飲める 二『當寺は何と申しますな 坊『是は萬久山長光寺と云つて昔は却々立派な寺であつたが、何にしろ永い間世の中が亂れて居り良い檀家が皆なバタ〳〵潰れてしまひ、それが爲に當山も追々頽廢して今では此通り檀家も何にも無くなつてしまつて、住持なぞも其故に居つかない、拙僧はまア番を云ひつかつて當山の番僧になつて居る話し相手が無いから鬱を慰める友と云ふつもりで此の濁酒を貰ひ、一杯飲むと何となく氣を陽々としてグッスリーと睡入睡られるが、偖是が無かつた節には却々夜は睡られるものでない、然し今夜はお前さん方が泊つてくんなすつたので何も拙僧は喜ばしい、さア〳〵何か珍しい世間話をして下さい』と居爐裡を圍んで彼の番僧四方八方の話し、兎角いたしまする內に夜も大分更渡る 坊『ヤアお客、ウカ〳〵と長話しをした、拙僧は宜いがお前さん達は嘸ぞ迷惑であつたらう、本堂の次へ行つて寢なさい、彼處は一番毀れて居ない處で幾分か清潔だから、拙僧は此處へ倒仆てしまふ』と坊さんは爐の淵へ睡込んでしまひました、二天は 二『さア臥りませう 驍『何にしろ寒くて寢られないが、お前と一緒に並んで寢みませう、彼是して居れば直に夜も明けるだらうから 二『左樣でございます』と先に立て本堂の前へ來て見たが、本堂と云つても本尊も佛具もございません、前に古い經机が一ツあつて獸物の足痕が附いて居る、兩人は次の室に來て橫になつたが睡られる譯のものではない、夜は次第に更渡り寂々として物凄き折からガラ〳〵と云ふ恐しい音がした。

南山町三丁目巴城館通電話二九二〇
齒科診療　橋本齒科醫院
齒科醫學士　橋本清次郎

外科 花柳病科
內科 皮膚科
院長 正六位勳四等 島崎龍一
京城旭町一丁目(本通りより左に入る)
手術室新設 普通病室別室
島崎病院　電話二七三六番

南米倉町朝市場通仁濟病院跡
內科 小兒科 花柳病 外科 入院隨意
上野醫院　電話二九三四番

肛門病 痔疾注射專門
(十一月十三日より向一ケ月間)
京城南大門驛構內二見旅館內
肛門病專門 院長 **久枝秀喜**
『患者參考』最新式痔疾根治注射療法書申込により進呈す

暦

十一月十六日九星
舊十月廿一日丁巳
本命七赤西破赤口

▲七赤 慾張り勝ちなる事有る日 新事見合南方は吉 殺劍西▲八白 美麗の日 轉居 行商 入學 名弘 建築 求職 金件 婚禮 美術 金融 等萬吉▲九紫 分別よき日 轉居 旅行 入門 名弘 金談 求職 特許 出願 等萬吉▲一白 圓利の日 轉居 開業 入學 名弘 求職 建築 婚禮 金談 出漁 等萬吉▲二黑 祝福の日 轉居 行商 出獵 名弘 求職 探鑛 金件 婚姻 醫藥業 等萬吉▲三碧 手に合はぬ事有る日 新事手控 舊事繼續は妨なし▲四綠 辻褄のあはぬ事有る日 新事手控 舊事は吉 盜難財を防ぐべし▲五黃 暴雨の當る日 轉居 旅行 入學 名弘 求職 建築 金談 婚禮 等萬吉▲六白 同情を得て物事成就する 萬事進んで利有 侍人遠人より來る

演藝案內

稻荷座　京城本町五丁目
十一日より新案初興行 京阪落語別派三升家會 大切所作事座員總出 ◉落語芝居喜劇本屋 ◉本衣裳應用 [illegible]

大正館　櫻井町 電話八七三
日本活動寫眞株式會社朝鮮代理店
十一月八日より提供の新寫眞と餘興 [illegible]

黃金館　電話一八五二(階上)・二六三七(階下)
十一月十四日より喜特別大寫眞 [illegible] 悲劇『渦卷く浪』(全四卷) [illegible]

壽館　京城壽町 電話一〇五〇
十一月十三日 [illegible]

有樂館　本町一丁目 電話二六六
十一月九日より特別大興行 [illegible]

御成座　成町 電話一九一
第二十三回鐵道 [illegible] 喜劇 三人百性 全三場 [illegible]

浪花館　明治町 電話二六〇
九日より [illegible]

寫眞
寫眞出張撮影 寫眞銅版・凸版 最も熟練せる技術を以て最も廉價に調製す 迅速と可要親切を旨とし御需に應ず
京城日報社 寫眞製版部

▲美味なる▼
虫下し最良藥
定價五錢・十錢・廿錢・五十錢
名古屋 岩崎大海堂セメン藥
美味なる 虫下し最良藥 さんとにん 評判高尾源藥
大阪天王寺 鳥居前 本舖 岩崎大海堂 ▲內外藥店にあり
主治効能
蛔虫諸症、疳の虫、蟲熱、夜なきの虫、乳あまし、虫腹いたみ、疝熱の虫、虫胸あしく、勞熱の虫、虫せき、驚風の虫
近來粗惡なるにせもの續出す 鳥居の商標と岩崎大海堂に御注意を乞ふ
▲廿錢のは卅二錢分入りで國入で最もよく常用と進物に妙です

ハーニスサック
A 十錢 [illegible]
廿五錢女用十一個 [illegible]
廿錢郵券代用一割増 [illegible]
引 京城黃金町三振替京城 [illegible]

酒 煙草 きらひになる藥
禁酒丸……禁煙液……
どんな酒嫌ひにもなる郵券二錢送れば說明書及大澤博士の禁酒禁煙論進呈
其他名士の
本舖 大阪市朝南通二 森田商店

腦病良藥 レーベン
◉本レーベンは植物性の藥物にして醫學博士岡田、醫學士森繁吉、日向軍醫少監醫學士森友道氏等十餘名の著大家が有効證明を有する良劑にして常に醫學士の創製に係る絕妙の腦病藥なり故に腦神經衰弱頭痛、眩暈、逆上、ヒステリー其他凡ての腦神經系病に對する絕好の市販藥にして「リンサン」の多量に加味せられたる新式の錠劑なり論より證據先づ百錠乃至二百錠を試みよ
藥價三十錢、五十錢、八十五錢、一圓六十錢、三圓、五圓五十錢、の六種あり、信用ある藥店に取次す、本病の療法書と本劑の說明書は申込次第進上す
發行所東京市銀座弓町電話長京橋三〇八番◉支店大阪東區安土町堺筋電話長本局三〇〇七番

化粧用
ライオン石鹼
お寒くなりました。
皮膚の弱い御婦人や、お子樣方の美しい肌を荒らす風が吹きます。
養つた肌は決して荒れません。
ライオン化粧石鹼で
淨めた肌は益々美しく輝きます。

本舖 小林富次郎

最新式美容液
レートフード
かくし化粧に一番よい
ほんのり色白くなる
▲レートフードは化粧品の中でも肌の素地から改めて根本的に美しく麗はしくする最も進歩した化粧料ですから外の化粧品とは全く違つて多く召せば召すだけお肌の色艶を增す譯です
▲紳士の地肌ならしや女學生方の隱し化粧料として目立たず落付いて而もお顏を上品にお肌の害を防ぎますから東京では上流の家庭にレートフードを召さないお家はまつたくありません
東京 平尾贊平

京城日報　第三版

十五日發刊（ダナヒ合せて八頁）

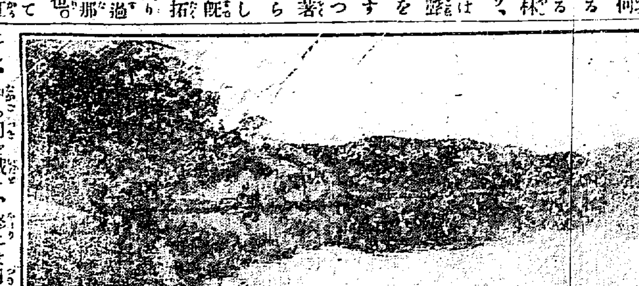
本紙定價　一ヶ月金六拾五錢
廣告料
發行兼編輯人　奥田直毅
印刷人　小川三之介
發行所　京城太平通一丁目　合資會社京城日報社

一日四十里遊覽誌（承前）

蘇峯生

此邊處々に釣場を設けて、鯉を釣る。偶ま一釣翁の水舂して、出づるを見る。髪は銀の如く、膚は銅の如し。其齡を問へば、八十歲と答ふ。其姿を其儘に描けば、文展にては、別室に幽せらる可き。即ち亞當の未だ禁菓を喫せざりし以前の姿勢を爲し、平然として人に對す。傍の釣翁に鯉の物ありやと問へば、纜にて縛り水中に泳がせ居たる、一貫五百目もあらん巨鯉を引き上げ、此れありと答ふ。而して舟は溯る約三十町にして、既に右岸黃葉の林中より、二僧の來るを見る。乃ち神勒寺の住職等が、出で迎へたる也。落葉を踏で林中を分け入れば、「林叢くる所神勒寺也。」此れは高麗時代、懶翁と申す高僧の建立と聞く。直に李朝初期の作と踏ねたる、庭前の多層大理石塔の龍紋を拓す。拓し了りて小徑を辿り山に入れば、新羅時代と聞ねたる五重塼塔、高麗時代と聞ねたる三重石塔、及び麗末と聞ねたる大藏閣碑等あり。何れも漢江の水濫りて碧潭を爲したる巨巖の上に在り。下に蛟龍の窟たる碧潭あり。上に櫟、楢等の黃葉の林あり。眼前に古昔の記念たる塔あり、碑あり。低徊多時、去る能はざるは勿論也。偶ま向岸よりプウ〳〵の聲聞ゆ。是れ支那人韭丁が、自動車を齎らし來りて、予等の還るを促がす也。實は午後二時に向岸に來り待つ可しと、命じ置きたるに、神勒寺に著したる頃は、既に二時を過ぎ、更に河水、西村生及び方君、碑を拓し、大藏閣碑を拓し初めたるは、既に三時に垂んとせり。拓し了りて拓本の未だ乾かざるに、之を捲き去りて、寺を辭したるは、既に四時を過ぐる二十分となれり。香氣なる支那人に比すれば、予等は更らに香氣也。然も天霽氣淸、滿林黃葉、風なくして蕭々として落ち、夕陽は斜めに漢江の水を射り、江山は拭うて畫裡の如きの際に於て、打碑登々の三昧中に入る。眞に是れ一刻千金にあらずや。乃ち僧に謝して、棹を廻らせば、林中の銀杏樹は、自から大王の如く、其の琥珀色は、夕照に映じて、特に鮮明也。東坡が所謂「扁舟一棹歸何處、家在江南黃葉村」の句は、今や眼前に活現す。岸に到れば、例の支那人韭丁は、不平の顏もせず、釋然として神迎へ。此方より神勒寺を見れば、寺は黃葉の林に沒して見れず。唯だ暮鐘の水を渡りて來るあるのみ。詩趣滿懷、憾らくは一句の之に酬ゆるなきを。斯くて鄕夢樓の題詩を以て名ある清心樓に立寄り、宋、燃の書院にして、今は江漢祠と稱する、其の祠堂に詣し、彼が爲めに建てられたる大老碑を見、見送りの官民有志諸君に一揖して、歸途に就けば、既に午後五時を過ぐる十分。此れより一氣呵成に驟る。途中五次の難場も、將た松波に於ける漢江の渡も、首尾克く經過し、龍巢居に歸著したるは、午後九時半頃にてありき。最初は月を背にし、中ろ月を戴き、終には月に向ふ。歸途は月を伴侶として、亦た別趣の光景を見たり。予は本來自動車排斥黨也。されど京城と、驪州とは、朝鮮從來の流儀にては、三日の行程なり。乃ち往還のみにても、六日を費さゞるを得ず。然も一日にて、其の概觀を殫くすを得たるもの、豈に亦自動車の恩惠ならずや。文明未だ必らずしも詩人の敵にあらざる也。若し杜甫や、孺耳致を乘せ去らば、必らず得る所多かりしならむ。但だ憾らくは其人にあらざりしを。姑らく記して他日の備忘錄と爲す。

大正五年十一月四日午後八時於京城龍巢居



神勒寺の森（岸上の三重石塔を見よ）

朝鮮の麻織物（三）

中央試驗所　室田武隣氏談

朝鮮に於ける麻布の使用季は中春より中秋に至り常用服として一般に使用せらるゝのみならず勞働服、喪服等にも用ゐられ其の用途の廣汎なる大麻布及び苧麻布を合し產額に於ては綿布を超ゆること一萬數千圓を差し輸移入額亦綿布の約七分の一に相當し半島諸般織物中其の需要額に於て第二位を占め之が製織工業は甚だ有利なる事業の一として一般に認識せらるゝところなり然りと雖も企業經營の果して有利なるや否やに關しては吾人工業として成立し得べきや否やに關しては吾人不幸にして多少の疑無きを得ざるなり即ち現在の生產情況に鑑する工賃率の如何に就きて研究せむ

△生產費と工賃率

布の市場出現は各地商人の仲立人を介して買占を爲すに始まる而して之等商人の買集に際しては何等相場の準據すべきもの無きが故に商品の取引後相場の變動に曾ひ往々不慮の損失を招くことあり而して相場變動の根元は一に懸りて支那輸入麻布の市場如何に因る大麻布最近の市價左の如し

品種	重量	價格	品種	重量	價格
三升布	七〇〇匁	一、五〇圓	九升布	二六〇匁	三、七〇圓
四升布	五八〇	一、七〇	十升布	二〇〇	四、三〇
五升布	五〇〇	二、〇〇	十一升布	一七〇	五、五〇
六升布	四五〇	二、三〇	十二升布	一五〇	七、〇〇
七升布	四〇〇	二、六〇	十三升布	—	一〇、五〇
八升布	三六〇	三、〇〇	十四升布	—	一四、〇〇

今中等品八升布一匹（鯨尺長さ五十四尺幅九寸五分、平均目方三百匁）の市價三圓二十錢のものに就き其の原料の價と工賃とを概算するに凡そ一束は麻幹の束ねたるもの根本廻り一尺位にして五百匁乃至五百五十匁の原麻を得、之が剝皮を爲す時は九百匁乃至一貫匁の麻皮を得べく一束よりは六百六十匁を要取するの割合なり而して此の一束の相場は中等品八、九十錢にして百匁の麻皮より粗糸（割る）證繋（紡ぐ）して三十五匁の絲を得らるゝが故に八升布三百匁のものを織るには消耗の部分を加へて三百三十匁の絲を要し此の三百三十匁の絲を探るには原料麻皮九百四十匁即ち約一束半の原麻幹を要し其の價格一圓三十五錢となる而して大麻布一匹の價格三圓二十錢より此の原料價一圓三十五錢を差引く時は一圓八十五錢を得、此の一圓八十五錢は大麻八升布一匹に對する工賃となる譯なり製造の情況を見るに下等品は約五十日特等品は七十日を要し其の製絲には小兒の手をも借り晝間には終日作業を繼續し夜間には綿卷を作り間の從業無き習慣なりとす而して中等品にする日數を六十日と見て其の工賃を計算すれば一日僅かに三錢一厘となり勞力より打算する時は到底成立すべき作業に非らず又若し支那麻布の入りに際し相場の低落したる場合の如きは殆んど原料の値段を以て放賣せざるべからざることさへ無きにあらず斯くの如く本業は利益極めて僅少にして若し工賃を基礎として計算する

神勒寺の大藏閣碑

朝鮮の古城郭（四）

八木奘三郎

（五）結論

（承前）已に斯る風潮を生ぜし爲め、彼の名城も頻りに增加し、遂に陷落の憂を絕ちしならんか、何にせよ其の進步せしことは明かなるが如し、予嘗て武毅の忍に遊んで其城址を見しが、此城は一望平坦直ちに本丸を衝くこと容易なるの觀あり、然れども進んで右に達せんとすれば、城濠縱横、數重の繩てありて其事甚だ迂回、殆んど衢道を失するの想ひあり、又道路をたどりて門々を入れば曲折去れば秀吉の小田原征討に際し石田三成以下の數將大軍を率ひて之を攻圍すること久しかりしと雖も遂に城兵を[illegible]すること能はず、後和議成て[illegible]せしが、顧ふに是等は名城の[illegible]ざる類と謂ふ可く、其然る所以は一に繩張の妙を得たるが爲めなる可し、予は固より軍學の如何を知らずと雖も、斯る日本の實例を移して觀察すれば、朝鮮の城郭は凡て未成品にて、學者の所謂未だ堂に昇らざる類なりと信ぜり、然れども假りに沿革上より前後の時代別を試むるれば略ぼ左の四期に區分することを得可し。

朝鮮城郭の時代別（第一期漢式時代　第二期我式時代　第三期二者混同時代　第四期新式時代）

右の中第一期は樂浪、帶方時代より三韓早期に加ふ可く、第二期は即ち三國時代にして、第三期は新羅統一後より高麗其間に入る可く、第四期は李朝一時代にして、全體共に變化乏しかりしが如し、勿論將城、郭の研究精緻を極めば、或は四期共に小分期を置く必要を認むるやも圖られずと雖も、今日は未だ其域に達せず、故に姑く右を以て足れりとす可し、以上述る所は頗る粗大に失するの嫌ひなしとせざれども、予は朝鮮古城郭を視察、或は望見するに止まりて、一も精査の手を下す遑を得ず、故に夫等は將來專攻家の研究に委して、茲には其概論を記述せしに過ぎず、然れども今日當半島の古城郭は未だ何人も其沿革を叙せしことなければ假令大略と雖も、世人の參考たり、手引たる價値は之れある可しと信じ、本紙の請ひありしを好機として之を錄せり、而して最初は上古より李朝にまで及ぶ豫定なりしも、回數多きに失するのみならず、予も毎夜の執筆に疲勞を生せり、故に今回は右に止めて、餘は他日後篇若くは續篇として記することゝなせり、唯だ望む所は讀者中別個の意見を持せらるゝ場合は予の說を批評し、若くは新資料を示して裨益を與へられんこと請ふこと切なり（完）

放浪漫記

十一月八日襄陽丸船中に於て

大谷光瑞

十一月一日午前八時武陵丸は漢口を發せり、翌日午前六時岳州を過ぎ、洞庭湖の東邊を行き、正午蘆林潭に著す、本年は夏期雨少なく、湘水は著しく水深を減せるを以て、之れより上流は航行するを得ず、止むを得ず停船せり、湘水の增減は稍急激にして、數日の降雨あれば尺餘の增水をなし、時に氾濫の危險なきに非らず、本年の如き夏時の少雨なるは稀にして、水源の諸山の水を齎ふるなく、特に下流の地方は殆んど徒涉をなす處少なからず、下流は揚子江本流と高低少なき爲め、甚だしき激減なきも、長沙附近は已に減水の厄を免れず、特に長沙の下流數哩の地の如きは、水深七尺に及ばず、武陵丸は一千四百五十八噸にして、小生の乘船せし時は喫水七尺を過ぐ、故に溯航は絕對に不可能なりとす、聞く處によれば、大正元年の如きは、過冬長沙に至るを得たりと、如此は異例に屬す、然れども本年の減水も亦尋常に非ずと云ふ、蘆林潭は湘陰縣の下流約七哩の地點にして、夏期增水の時は、水中に沒して魚蝦の巢たり、秋後水落ち沙露はるに至て、芭蕉の假屋鱗次相接し、汽船帆船檣竿林の如し、此の上流に一小淺處あり、爲めに湘陰に至る能はず、蘆林潭より長沙に至る間、約六十哩は小汽船に曳船をなし接續をなせり、小生如き長軀は、局促殆ど堪へ難し、而して汽力微弱十時間を要し、午後十一時長沙に著す、小生北京出發以來、漢口に近くに從て、南西にシラス雲を見る、一日一日晴天溫暖小春の威あり、然れども雲量は增加せり、二日に至り偏南風を生じ、正に低氣壓の近くを告ぐ、午後は微雨瀟々たり、三日は立太子の御式の日なるを以て、官民一同領事館に會し、萬歲を三唱し祝賀の微意を表す、午後運動會の豫定なりしも、微雨陰翳、加ふるに地濕ひ疾驅に便ならざるが故に已を得ず中止せり、小生は領事館を辭し、賈誼の故宅を訪ふ、宅は城內にあり、題して賈太傅宅と云ふ、蓋し前漢以來の故蹟ならん、今は兵營に變じ司令部此に居る、建築は素より淸朝のものなり、唯白石床一を殘す、傳へ云ふ太傅當時のものなりと、賈誼才高く學深し、而して不遇を嘆す、然れども長沙の謫居も亦一錯の非命に比すれば、稍勝る處なきに非ず、彼の屈原を弔して以て自比す、使騏驥可係而羈兮豈云異夫犬羊と云ひ又彼尋常之汙瀆兮豈容呑舟之魚橫江湖之鱣鯨兮固將制於蟻螻と云ふが如き、自から其抱負の大なるを示せり、彼の鵩を賦するが如きは、絕望の窮辭なり、而して大悟するが如き言をなす天不可與慮道不可與謀遲速有命烏識其時の如き、其生兮若浮其死兮若休澹乎若深淵之靜氾乎若不繫之舟の如き皆然り、然れども、彼れをして終に南國に竄死せしめたる文帝、亦人を用ゆるの才にあらず、古より才大なれば用なし、今古又軌を一にせり、我亦大傅を弔せずんばあらず。（未完）

日報歌壇

京城　鶴峰

こんじきの小さき鳥めき舞ひて落ついてふ吟たし若人の懷に

小舍の裏もろくも散りし落葉のうち默しつゝ秋に別るゝ

研鐵寛さきにまつはりてくろうすれ日の定めゆれつゝ秋に別るゝ

嚙ぎれよきお駒に似たる緋鹿子とまちりて踏きぬあはし壺坂

廢業廣告

小生從來當地に於て土木業營み居候處都合有之今般廢業致候間御禮旁々謹告候也
但し目下請負に係る工事は出張所を廢し竣工次第撤去の筈に候
京城府桑町六番地
小林長兵衛

○電信修技生募集

當局電信修技生十五名ヲ朝鮮人ヨリ募集ス詳細ノ事項ハ十一月十三日以降朝鮮總督府官報又ハ當局從事員敎習所ニ就キ承合スヘシ
大正五年十一月十三日
朝鮮總督府鐵道局

新刊書御案內

書名　著者　定價
現代大家文章と修養　大日本家庭協會編　特二、〇〇
新しき命　野上彌生子　一、五〇
我等何を信ずべき乎　加藤一夫譯　一、五〇
生命の一路　賢造　一、四〇
神尾式速算法　神尾　一、〇〇
支那骨董叢說　永堂主人述　七〇
日化隨用製造顧問　全　五〇
日用化學工藝品最新製造法　町田　六〇
心得て居らねばならぬ社交禮法　別府雅吉　九〇
市町村名辭典　杉野耕三郎　一、三〇
ロンブローゾ死後の生命　中村古峡　一、三〇
弱者の爲に　杉村楚人冠　一、三〇
世間學　村上浪六　九五
家庭看護のしをり　吉岡彌生　一、二〇
江戶俠客物語　林和　九〇
明眸　行吉井勇　八五
湖畔の落人　太田正孝　六五
彼等　平田禿木　五〇
英文組育生活　伊知地純正　七〇
ペン數字練習帖　大阪屋號編　一〇〇
朝鮮總督府編　師團創設記念號　朝鮮通信社　上三、〇〇　並二、〇〇
大阪屋號書店　京城本町振替口座一〇八〇　電話二五一三

品質の優秀は
絕對の信用を博し
最後の勝利を獲得す
宮內省御用酒釀造元　攝津灘新庄家　若林合名會社
醇酒　忠勇
特約店　京城本町三丁目　山本富之助商店　電話五七五番

平壤
栗卸
京城南大門外　池田商會　電話七五九番　振替口座二四七番

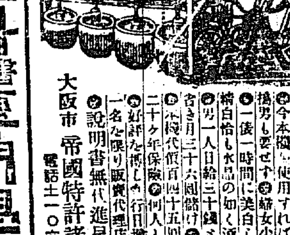
輕回發動裝置　足踏四白精米麥機
賜天覽　受金牌
苦心拾年參萬圓の發明費を投じ一八拾餘揚完成
大阪市　帝國特許諸機械專門製作所

東京齒科醫學專門學校　校外生募集
（學則郵呈）
東京神田三崎町

巖谷小波先生著　新お伽百話　杉浦非水裝畫
東京本町　博文館
附錄御前口演　指輪大名　水地獄　お伽二十五年史
正價壹圓八拾錢

養成
發行所　東京市京橋區日吉町　民友社
賣捌所　京城太平通一丁目　京城日報社代理部

放浪漫記　大谷光瑞師著
本派本願寺前法主
三十首題、旅行地圖、各地寫眞數十種挿入
定價參圓　郵稅十二錢



老西開事件妥協

十四日調停案を議會に提出せん

天津老西開事件は日英露三國政府の調停にて支那政府と佛國公使との間に一先づ妥協を遂げたるが調停案は四個條より成れりされど該案は國會の承認を經ざれば正式に成立せざるを以て政府は調停案を十四日國會に提出すべし尙直隸公民大會及び天津國土國權維持會は日英露三國の調停案に反對し該案にして國會に提出されなば直に否決すべしと參衆兩院に交涉せり(北京特電)

日支案速決電告

張督軍は伍廷芳氏外交總長に就任の上は日支交涉案を速決せられたしと政府に電告せり(奉天特電)

日支裁判廳設立提出案

陳奉天高等審判廳長は中央司法會議參列の爲め北京に赴き日支會審裁判廳設立案を提出の筈(奉天特電)

警察統一建議

中村關東都督は南滿洲に於ける警察統一に關し政府に建議せりと(東京電報)

日支協會發起

十四日午後四時築地精養軒に於て日支協會發起人會を開けり(東京電報)

興業銀行開業

興業銀行は十四日より再び開業せり(奉天特電)

林公使と張督軍

林駐支公使は張督軍の切望に依り十七日奉天に於て會見する事に決せり(奉天特電)

將卒へ勅語を賜ふ

十四日福岡縣下に於ける特別大演習終了し南北兩軍の成績に對する上原參謀總長の講評ありたる後午後二時御野立所に於て左記の勅語を賜はりたり(金谷特派員發電報)

勅語

演習ノ經過ニ就テハ上原參謀總長ニ命シテ講評セシメタリ朕親シク演習ヲ統監シ軍事ノ進步著シキヲ認メ之ヲ嘉ス方今宇內ノ形勢ハ朕カ國軍ノ精銳ニ須ツ事甚タ大ナリ汝等將卒克ク此ノ旨ヲ體シテ倍々奮勵セヨ

敵水雷艇一勝一敗

三十六浬の速力を有する敵水雷艇は濃霧に乘じて芬蘭灣に入りバルチスポート港を砲擊して死傷十二名を出したり露國軍艦數隻は水雷艇の退却を追擊して其の過半を擊沈せり(倫敦電報)

敵國通商禁止決定

政府は巴里經濟會議の決議事項たる對敵國通商絕對禁止の件を實行する事に決定せり(東京電報)

三線運賃割引實施期

三線聯絡運賃問題に就ては豫て鐵道院朝鮮鐵道局及び滿鐵會社との間に於て協定成れる結果朝鮮鐵道經由滿洲行貨物に對する割引運賃は愈々來る二十日より實施の事となれり(東京特電)

新任平安北道長官 藤川利三郎氏

臺銀の[illegible]施設

料を差引たる殘部を預金に配當する[illegible]

中國銀行窮狀

行する場合に一人に付五百元以上の[illegible]

貿易復活交涉

浦鹽港の輸入禁止に伴ふ日露貿易復活に關し目下帝國政府は露國政府との間に交涉を重ねつゝありと(東京電報)

學校衛生調査會

豫て文部省に於て立案審議中なりし學校衛生調査會規則は十三日の官報を以て告示されたるが其內容左の如し(東京電報)

一、學校衛生調査會は文部省の諮問に應じ學校衛生に關する事項を調査する機關とす

二、本會に委員長一名委員十五名幹事一名及び臨時調査委員を置く

石川縣訴判決期

石川縣知事より大審院に上訴中の選擧無效訴訟事件は二十日判決言渡ある事に決定せり(東京電報)

平北道長官更迭

十一月十四日附を以て左の如く發表ありたり(東京特電一夕刊欄外再錄)

任平安北道長官(二等) 總督府事務官 藤川利三郎

依願免平安北道長官 平安北道長官 川上常郎

鮮銀總裁著期

新任朝鮮銀行總裁美濃部俊吉氏は十八日舊任地北海道を出發し赴任の途に上る事に決定せり(東京電報)

兒玉伯釜山發著

埠頭盛んなる見送り

內閣書記官長兒玉秀雄伯並に同夫人は十四日午後七時釜山著直に新羅丸に乘船したるが棧橋には佐々木道長官若松府尹大池香椎兩氏を始め其の他官民數百名外に愛國婦人會員等の見送り盛んなり兒玉伯は見送り諸氏を船內應接室に引き三鞭の杯を擧げながら在鮮中の厚意を謝し訣別の辭を述べ八時三十分出港せり(釜山特電)

鮭魚養殖試驗

總督府鮭養殖試驗所(咸南高原郡)に於ける鮭人工孵化養殖試驗は追年順調に進捗しつゝあるが昨年度の試驗成績を聞くに左の如し

▲漁獲及採卵 四年度の採卵期間は同年十月十二日より十二月八日に至る五十八日間にして該期間內に於ける親魚の漁獲數二千四百九十八尾、內採卵適魚雌四百四十八尾雄四百十一尾、採卵不適魚數一千七百三十八尾なりしが右親魚よりの採卵數九十八萬三千六百粒にして豫定數の約三分一に過ぎざりしは親魚の漁獲少かりしに由る！

▲發眼及孵化 四年度に於ける孵化用水溫は孵化使用中大正四年十月十二日より大正五年一月二十一日迄の期間內最高十三度八分最低十二度通常十三度內外なりしが卵は十一月六日より十一月三十六日迄の期間中受精後二十三日目に發眼し十一月二十五日より翌年一月二十一日迄の間に於て孵出し死卵數は發眼前六萬二千二百五粒發眼後十萬五千三百九十一粒合計十六萬七千五百九十六粒にして孵出總數八十一萬六千四尾採卵數に對する孵化率八割一分九厘强を示せり

▲魚兒の飼育 孵出したる稚兒は孵化後四十七日にして臍囊を吸收したるを以て少時孵化槽中に飼育したる後育養池中に移せり飼育中に於ける斃死魚數合計二萬五千九百二十七尾にして孵化數に對する死魚の割合は三分一厘弱なり

▲稚魚の放流 稚魚は三月二十日三十萬尾、同月三十日二十五萬尾、四月八日二十四萬七十七尾、合計七十九萬七十七尾を放流して採卵數に對する八割三厘餘の成績を擧げたり此の內三萬尾は副鰭を切斷して標識を附し第二回の放流と同時に放流せり今四年度の成績を概括すれば左の如し

採卵數	九八三、六〇〇粒
死卵數	一六七、五九六粒
孵出數	八一六、〇〇四尾
孵化後死魚數	二五、九二七尾
放流數	七九〇、〇七七尾

會議所の豫算

大正六年度の分

京城商業會議所大正六年度豫算に就ては他の官廳と同樣の豫算年度により編成さるゝものなるが未だ調査に著手し居らず從つて其收支の數字を知り難きも本年度の豫算歲入總額一萬五千七百五十三圓中の大部分たる一萬五千九十三圓が內鮮人の會員五百八十六人に對し京城府の營業稅年額百分の二十九を賦課して徵集したるものにして會議所創立後匆忙の際に編成せる豫算にして會議所の現況と會員の負擔力との實際に徵し暫らく現在よりも減額するの要あるべしとの說を爲すものあれば或は來年度豫算の編成に當り多少此邊の手加減を參酌して編成さるゝやも知れず然れども他面に於ては會議所は目下日進月步の勢を以て發展せんとする際なれば豫算の如き寧ろ積極主義を採り定款に定められたる各種の方面に向つて事業の手を伸すに如かず若し會員の負擔力にして重きに耐へずとあらば調査部の活動によりて手數料を增加し又は月報の廣告料を增加する等の方法もあるべく要するに會議所事務室の新築と云ふ問題も刻下の急務に屬せる際なれば會員たる者も亦多少の苦痛は忍ばざるべからずと稱へられ居り兎に角年內には豫算の編成を終り來年の一月其筋に認可申請書を提出することゝなり居れば近く何れかに決定を見るに至る可きも給與費又は會議費等に於て若干の節約を來すに至るやも知れずと

官鹽事業の基礎全く成る(上)

＝有望なる朝鮮の天日製鹽事業＝

專賣局技師兼朝鮮總督府囑託 奧繁藏氏談

▲朝鮮の官營鹽田 は現今廣梁灣並に朱安の二個所にして何れも明治四十年より工を起し大正三年五月に至りて竣成せるは世人の熟知する所の如し、此の總鹽田面積一千町步の中、朱安は僅々九十八町步に止まり殘部九百十一町步は廣梁灣に依りて占めらるゝが故に朝鮮官營鹽田の消長は一つに係りて廣梁灣の振否如何に存するを知る可く從つて茲に說かむとするは廣梁灣鹽田の成績なり、本鹽田は當初堤塘田面等に種々の故障あり

▲修理改善等を要する個所砂からざりしを以て操業全面積に亙る能はざりしが、爾來漸次良好の成績を示し今日に於ては唯だ一部の手直しを要するのみにて殆ど九百十一町步の全面積を働かし居れり、從つて採鹽高の如きも年と共に增加を告げ、大正元年には一千九十五萬斤なりしもの同二年には三千六百三十三萬斤、同三年には四千九十四萬斤、同四年には四千六百十五萬斤と遞增し、本年に入りては今日までに於て六千七百九十七萬斤の採鹽量を見、之を前年に比するに實に四割七分の增收なり、斯は天候の適順なりしは勿論、技術の進步製法の改良等亦與つて多大の力ありと謂ふ可く

▲朝鮮官製鹽事業の爲め慶賀に堪へざる處なるも然かも之を豫定の最極度收量たる一町步十萬斤即ち約一億斤に對比すれば尙ほ二千五百萬斤の軒輊あるを以て、當局一同は更に黽勉努力豫定の收量に到達せしむるの期の一日も速ならむことを期し居れり、但し本年の採鹽量は之を鹽田開始以來の年限上より考ふれば誠に異常の進步にして、收鹽最も少き箇所に在りても一町步三萬二千五百五十斤を下らず、最も多き箇所に在りては一町步十萬二千五百斤に達し、全面積の平均量七萬四千六百二十一斤を算せり、之れに依つて見るに一町步當平均數量に於ては未だ二萬五千六百斤の不足を示せりと雖も最多の場所に在りては前記の如く遙かに十萬斤を越へ居れるを以て其の他の鹽田に在りても田面及び人夫の狀況等之れと差なきに到らば

▲何も十萬斤以上に達し得べきは自明の理と謂ふ可く、殊に前記十萬斤以上の收量を見たる鹽田は其の面積狹少ならず、何れも三十町乃至五十町步に亙れる廣汎なる區劃面積なるに徵せば此の情勢にして推移せむか、理想の收量に達すること敢て遠き將來にあらざるや論なし即ち吾人は本年度の成績に依り、適當の地に於て相當の當業者を得ば朝鮮の天日鹽事業は理想の成績を得ること敢て難事にあらざるを知ると共に朝鮮官鹽事業は其の基礎今や全く成れるを確保し得たり

鐵道營業成績

十一月上旬に於ける鐵道運輸成績左の如し(前年同月に比し增減△は減)

乘客	一五八、三八九人	二四、六五二
小手荷物	三九三、六九〇斤	△二五、〇九六
貨物	五六、八二〇噸	七、〇四七
客車收入	一一六、七六八圓	四、二七五
貨車收入	一四八、四九三圓	二九、四六八
運輸收入	二六五、二六一圓	三三、七四三
一日一哩平均收入	二四四八	一四八八

歸還兵一部出發

江原道春川駐剳步兵第七十九聯隊第二大隊五六中隊滿期除隊者百二十八名一行は十四日午前八時龍山著十五日午前五時五十五分龍山驛發歸還の筈なり

□兒玉伯より

本紙を通じて各位へ謝意

兒玉伯は十四日夜釜山を去るに際し阿部本社長宛て左の如き謝電を送致し來れり

京城滯在中の御厚意を謝す、釜山を去るに臨み謹んで御禮申し上ぐ貴紙上にて各位に對し小生の誠意を表するを得ば光榮の至りなり

研究會と兒玉伯

入京中なりし兒玉伯は十三日午後六時より永樂町の研究會に臨み約三十分間會員に對し懇篤なる訓示を與へ後任會長として秋山中樞院書記官長を推薦したり

露領視察員歸期

京城商業會議所の鮮露貿易視察員の一行は客月三十一日黑龍線を經て浦鹽に向け出發したるが今回の視察に於ては幾多の困難に遭遇したる一方には亦意外に良好なる成績を收めたるものゝ如く何れ二十日頃迄には歸任す可しと

露領行記

純露領に入る

(第十八信) 琴花

〇十月廿四日午前九時半滿洲里停車場に至ればプラットフォームに出る扉の悉く鎖されて乘客待合室に充滿す、西行列車の發するは午後零時半なるに已に乘客滿ちて切符を賣らざれば群集只管に喧嘩するなり、我等はイルクーック迄の乘車劵を所持すれば驛側より出でゝ列車に乘らんとするに九時浦鹽よりの車は旅客を乘せし儘外部より鎖されて乘る能はず、西行列車は一週三回の急行車と同じく三回牛の步みに等しき混合列車の外每日便は此の郵便車あるのみなれば常に旅客の輻輳すること斯の如しとあり

〇我等は驛長に交涉し、車掌子に袖の下を贈れど更に其甲斐あること莫し、さてしもあるべきにあらざれば痛く慨らふ譯なれど窃かに車掌子の首を縱に肯かしむる所あり、忽ち二等車の二階に一席の割愛を得てほつと一息、いとも嚴重なる稅關吏の檢査あり、斯くて旅客一統車內に蟄籠すること無慮三時間、旅行劵に憲兵隊長の捺印を受けて車漸く發す

〇滿洲里を去りて露領に入れば地形稍や變り、蒙の曠野の情眠より醒めて少しづゝ頭を擡げ手を張り足を伸ばすが如く、丘陵起伏して其狀小章魚の砂濱に列を作るに宛然たり、人跡絕無にして牛馬の群だに見ず、富貴貧賤の影あらず活動も競爭もなき悠久の野には逞ましき馬賊も施さん術の無くてや、車掌子も一齊にこそ拳銃の武裝を解り

〇午後四時過ぎより雪降る、室內はスチーム通はせたれば上衣脫ぐほどに蒸せども車外は零下十二三度にも下りぬべし、寒きのもとより働くに不便あれど、蒸し暖きも亦苦し、就中露人の旅客の習慣とて、容量一斗にも餘る最と頑ましき琺瑯鍋に種々の食物充てパンと皿とを載せたる籠など携ふなれば窮屈ならぬ此の肉の香の鬱して頭痛むばかりなり

〇さあれ昨日迄は三等車の三階に巢造りて背骨の痛の拙くやう、梯子なければ己が高座に昇降せむはさながら猿の梢を傳ふ如く工夫の電柱攀づるに似て、下階には雙手に炙肉握みて亘口に騷ぐ勞働者あり、中階には己が前面に糸を張りタオルを掛けて被帳とし瑞座晒癖に餘念なき韃靼氏あり、上階の仙客は頭の閊へて座せざれば臥禪して棚上の隻手を氣取る外なかりし身の今日は車掌子に歎き且つ級一等を進め辛うして乘車し得たるなれば凡ての贅は過忘ならむとありて謹み諦めたるは殊勝とや謂はむ

◎午後八時半アノン何を渡りてオーロウヤンナー驛に著く、驛に白樺樹多く、枝々雪花開きて夜景甚だ佳し(二十四日)

人事消息

▲石川鶴吉氏(平壤典獄)十四日夜退京 ▲野口多內氏(滿洲大興會社理事)同上 ▲西崎鶴太郎氏(鎭南浦商業會議所會頭)十五日朝退京 ▲セレンコ氏▲ボブスキー氏(露國軍需品係員)十四日夜入京朝鮮ホテルへ

(注意呈第次報一御ハ錄目)
よい筆よい墨の補充
御座敷用香の御使用
此頃の御座敷や御室内は如何に御座候や
京都寺町姉小路角 熊谷鳩居堂 フリカヘ大阪六三八
支店 東京銀座尾張町

銀行會社商店員養成の講義
最大速成通信教授講師現代一流大家講義親切丁寧平易
就積難を嘆ずる勿れ最も安全なる立身出世の途は開けたり本會は實業家養成唯一の機關世氏際入會者に空前大特典提供す
見本付會則進呈〇東京牛込西五軒町 銀行會社事務講習會

日韓書房 新版報告
德富猪一郎著 大正青年と帝國の前途 定價八十錢送料十二錢
奧野他見男著 諷刺諧謔先生と生徒 定價四十錢送料十錢
長岡春一著 大戰外交史 定價二圓五十錢送料十六錢
大谷光瑞著 放浪漫記 定價三圓送料十六錢
泉鏡花著 由緣文庫 定價一圓五十錢送料十二錢
京城本町二丁目 電話一四〇番 振替口座五二一一

新築落成移轉御披露
金氣清澄の候各位倍々御多祥慶賀の至りに奉存候降而弊店事是迄黃鳥谷に於て營業致來り候處今回新築落成仕候に就ては左記の箇所に移轉し更に營業の方針を改善し專ら料理鹽梅に丹念の上待遇向其他にも十分に注意を加へ諸事御滿足を得る樣精々勉强可仕候間倍舊の御引立を給はり度移轉御披露を兼ね右御願申上候 敬白
京城本町一丁目(辻屋裏) 弦齋流 すゞ祢 電話一七六番

十二月號 うきよ
讀者主催 本社後援 試膽幽靈會 ◎長屋住居今昔◎十三年の夢◎必ず集るフイルム◎未期に近く帝劇女優◎勇肌火見舞◎奇想天外の趣向不可解なり淺草の一切經藏建立者發見◎二
一錢學校創立者は貧民窟聖人 蛇の巢十萬圓資產家沒落 海底不思議◎南無女性三界無家◎求職に變裝した記者が東京京橋 土方 木賃宿に泊り裏面摘發
定價二十錢 送料二錢 振替東京三七九番 樂文社

簿記學生募集 寄宿生 通學生 校外生
立太子禮記念特募集 東京芝區櫻川町十一番地 日本簿記專修學校 私立認可

さゞめいて南へ

美しい花環に膝を埋めて、兒玉伯夫人　李王妃殿下御名殘を惜み給ふ

兒玉伯爵夫人は愛國婦人會朝鮮本部、京城婦人會から贈られた美しい二つの花環の中に膝を埋め成歡まで見送りの若い婦人達に取り卷かれながらお雛樣を並べたやうに毛布でスチームのお枕達を立てたりなんかして笑ひさゞめいて樂しさうに語つて居られる在京三日の間は伯爵につれて夫人も目の廻るやうなお忙しさに記者は屢々お目にかゝりたいと申し込んだが總督面會することが出來なかつた、いやお目にかゝることが出來なかつたのではなく淑とやかなレディーとして夫人がその機會を旨く外してばかり居られた、しかし汽車の中まで推參して見ると流石にもう逃げ道を失つた伯爵夫人は「京城に住居して居りました間は何くれと無く樣々な御高誼に預りました」とつゝましやかに一通りの御挨拶をされて記者が其の向合の座掛に腰を下して我て一言二言口を切ると「アラ貴方私はまだ許められて居りますよう助けて下さいよう」と美しい聲を挙げて少し離れて居た伯爵の方へ微笑の眼を向けると伯はニコ／＼しながら「君許めないやうに少し聞いたら此方へ來たまへ」と大變に御優さしい。十二日以來逃げ通した伯爵夫人はしやう事なしに語り出される

『今度こちらへ參りましてからあらゆる階級の方々から非常なる歡迎をいたゞきまして嬉しう厶いました十餘年來住まつて居りました朝鮮に參つたのですからほんとうに

▽**故郷に歸つて**　參つた心持が致します內地へ歸りましてからも折りが有りましたら朝鮮に參り度いと思つて居ります朝鮮の山河風物何れを見ても懷かしく名殘り惜しいものに思はれます

昌德宮王妃殿下に御暇乞に上つたのは十一日でありましたが久しい間朝鮮の御相手をして何くれとなく御話し相手を致し永い間の御馴染みの事とて悉く御別れを惜まれこちらから

▽**御名殘を惜み**　參らせました王妃殿下も一度は內地を御覽遊ばしたいとの御言葉もあり又こちらへも折りが有らば遊びに參らるゝやうにと遙やかなお言葉をいたゞきました王殿下を始め皆樣と一緒に

▽**紀念寫眞をも**　撮りまして御手許へ一枚こなたにも一枚紀念としていたゞいて參りました朝鮮の氣候は大變體に適して居りましたと見えて永い間朝鮮で一度も病氣を致した事はムりませんでした今夜は愈々釜山から乘船いたしまして懷しい朝鮮の山や河や親しい朝鮮の人達とお別れいたしますので今更にお別れがつらう御坐います」

丁度お話の切れ目に伯爵が聲をかけられたのでその方へ出ると自分が初めて朝鮮に來たのは明治二十九年日清戰役が濟んでから直ぐの事で有た　其頃は大學に居つて暇に遊びに來ただけであつた其時朝鮮は好い處だと睨んだといふ譯でも無かつたがそれから十年後の三十八年から十二年朝鮮に居つたから自分の

▽**生れて**　から一番永く居住して居つたのは朝鮮であつて此れから後を思ひ合せて見ても矢張り朝鮮に一番永く住むで居つた事に成るで有らう自分は引籠ぎを東京で爲ても良いのであるが　朝鮮の事は矢張り朝鮮に來て朝鮮を背景にして　行らなくてはさうも不自然である、それで朝鮮に來ると矢張り故鄉へ歸つたやうな氣持が爲るし今度

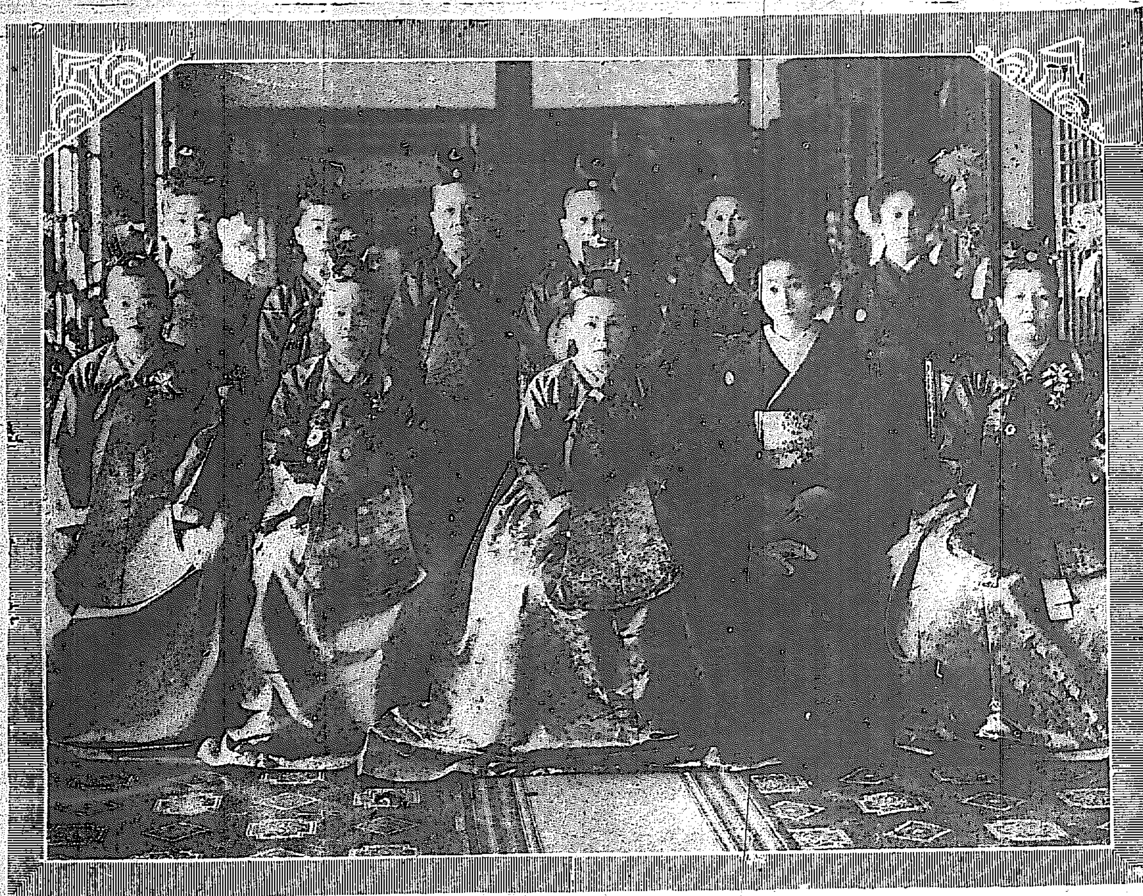
▽**東京の**　方へ行くこととなると故郷から別れて行くやうな感じが爲る斯うして驛々に出廻つて來る多數の農產物を見るに付けても誠に今昔の感に堪へないものが有る龍門附近は　近來殖林の爲めに　段伐又は燃料の爲めに山といふ山は殆ど禿山に成つて近來見違へる程繁つて來た朝鮮の山と其反對の傾向を示して居るのは頗る

▽**面白い**　現象である我輩も朝鮮に來た時は未だほんの青年時代であつたよ其頭は頭だつて今の如うに禿げては居らなかつた京城ホテルの前に邸が有つたよ　邸と云つてもほんに形式ばかりの小さなものだつた　伊藤公が時々夜中にやつて來て『奥樣お酒』などといはれたり、林權助男だ

▽**醉つて**　やつて來た事なども京城に於ける追懷の種である、其の頃は今に比べると寒氣が甚だかつた自分達夫婦が京城に居る間に媒酌した夫婦も大分少くない自分は十何人かの兄弟が在つて夫れが　緣狗する場合には皆な　他の厄介になるのだから　他に對しても亦同情し月下氷人の勞を多く取る事は自然の事で夫れ等の人達の多くが朝鮮に殘つて居るといふ事だけでも自分と

▽**朝鮮と**　いふものは深い因緣を持つて居つて忘れる事の能きぬ處である、別れるに臨んで內鮮人各位の健在を衷心から祈つて居る』と一わたり話が終ると

■**伯爵は、左右に**　居るその特別の緣故ある義姉かの若い夫婦の人達を……



◇昌德宮御名殘の御撮影＝兒玉伯夫人送別の日＝前列、向つて右より三人目李王妃殿下、四人目李堈公妃殿下、二人目兒玉伯夫人、一人目閔李王職長官夫人、五人目尹司長夫人、後列向つて左より尹正燮夫人、尹弘燮夫人、金忠淵、張成源、國分夫人、住永秀子、

……なるが本預金の特質は其預金を同……金を一口五千……不安よりも民間……行營業範圍を擴張し南洋支部臺灣各……圓期限一年以上とす而して銀行は投……せる爲め也。依て去る五日北京警察……方面に投資して其收入利金より信託……資に關する一切の責任を負擔する而……署長は一般支那人にして北京より旅……り交通銀行紙幣にも亦影響し目下百……貴の趨勢を示せる結果仁川に於ける……米穀業者が各地方に出張して買占に……て沿岸各地より入津する籾は實に一……萬二千俵に達し海岸通りは空前の大……

陸軍特別大演習

▽陛下、武勳を御嘉賞

大元帥陛下には武功に依り騎兵第六聯隊附少尉金竹盛茂に拜謁を賜ひ騎兵第五聯隊附軍曹富島護城を嘉賞あらせられたり、猶飛行機三機(小島中尉操縱佐野大尉偵察)(野見少尉操縱佐藤大尉偵察)の武功をも嘉賞あらせられたり(十四日午後二時五分長者町にて金谷特派員發電)

△關門の奉迎

天皇陛下御還幸は關門御通過に變更相成りてより關門兩市民は滿腔の歡喜を以て奉迎の準備中なるが門司市は驛前に奉迎門奉送額を造りたり猶港內の警備艦富士は十四日午前入港し御召艇初風警戒艦榊以下四隻の驅逐艦及び四隻の水雷艇は午後入港せり又關門御通峽に際しては之等の艦艇並に關門兩市より致せる數十隻の汽艇警戒の任に當る筈にて當日の關門兩市及び海峽は壯觀を呈すべし(門司特電)

■**離れたが最後**　籠で育つた小鳥のやうにすぐ萎にたり飢ゑたり摑まつたり鳴て終ふ殊にその家內などゝ云ふ者は自分の亭主が取り理護しの利かぬものは無い恰度水と糊餅とを貰つて食べて居る籠の中の鳥のやうなものでいろ／＼の引立で漸く地位を保つて居るとも知らずに一度職に

■**大きな顏をし**　て居るが其處に行くと政黨出の政治家などは實際に叩き上げた手腕を持つて居るから馬鹿には出來ない現に武富時敏君なども僕のすぐ隣りの

■**小さな家に住**　んで居るが與樣なども自分から一切の家政を司つて大臣に成つても別に威張つて派手にもやらない代り野に下つても立派な政客として大臣時代と少しも變らず進つて行く處は見上げたものである、之れを免職になる連ばかり恐れたり

■**免官になると**　すぐに尾羽打枯して縮まり切る人々に比べて見ると大變な相違である』と微笑しながら最後の敎訓らしいお話成歐際に著くと今更ながら名殘を惜むこれらの人々を殘して伯も夫人も樂しさうに南へ。

◉留置場に來る女　乳呑兒を抱へて冷たい板の間に　―2―

酌婦は其の罪の程度に依り大抵三日から十日迄、抱へ主は二十日から二十五日間位拘留處分を受ける斯うして何回となく拘留處分を受けた强者になると全く手に負へぬ莫連女となる、是等の女は一般に

▲**教育の無い者**　が多く中には自身の生年月日も知らぬ氣樂な女もある、それから殖民地には有り勝ちの異鄉の空で知邊もない爲め、已むなく夫婦共謀で惡事と知りながら罪を犯すものもある、斯う云ふ女が乳呑兒を抱へて檻房內の冷たい板の間に蹲まつてゐるのを見ると嚴しい警官も顏を反向ける事があるさうだ其れから女の博徒程圖々しいものはない、却つて男の被告人より橫著なので其の取扱ひには甚だ困難を感ずるばかりでなく取調を受ける際でも種々な勝手な

▲**出鱈目を並べ**　て警官を手小摺らせることがある、內地人の女は留置場に押込まれると最初の二三日は大抵さめ／＼と泣いて詫び居つて取調べに際しても前後の纏つた答へは出來ず早く監獄にやつて下さいなどゝ申立てゝゐるが、一週間も經過すると却つて狎れて來て拗ね初めるものが多く顏の良くないものになると病氣を裝ひ頭が痛いとか腹が痒いとか勝手次第なことを申出る、此際警察醫が診斷に來ると後の

▲**祟りが恐しい**　ので苦んでゐた病人が急に默り込んで了ふ、京城に於ける女の犯罪者は大抵大阪以西と九州地方の者が多い、これは居住者の人口の割合から來たもので關西地方の女許りが罪を犯す譯ではない、罪を犯して留置場に入れられる際は身體檢査を受け携帶品は一切警察署で預かり腰には細紐一つといふ慘めな姿を纏はる

◉少尉と稱せし大賊の判決

長崎縣生れの深堀政右衛門(三八)は前科三犯の曲者なるが昨年十一月京城に流れ込み山崎吉次郎又は中島清次郎と僞名し豫備少尉と稱して市中を徘徊中本年九月十五日夜並木町小野某方に忍び込み衣類十八點(百四十八圓餘)を竊取したるを手初めに外數箇所にて同樣大泥棒を働き且つ婦女十餘名を脅迫して金品千餘圓を捲揚げたる後全北全州に逐電中なりしを取押へられ京城地方法院にて懲役三年の處分となれり

◉圖々しい男

京城南米倉町松井某方雇人黃海道長連郡二道面別峴里生れの金萬成(三九)は八月六日懇意なる太平町二丁目許明妻尹姓女より郵便貯金の預け入れ方を依賴せられたる際同女の印章を竊み出して現金五圓を拂ひ出し尚其後にも二圓拂ひ出したる後通帳を紛失したりと稱して同女に交付せず其金にて衣類を買ひ求め之を尹姓女に贈與したるに同女は大に喜びたるが其後右の惡事を探知し萬成を告訴したるより同人は本町署に引致されたり

◉坑夫銃殺事件

大分縣北海部郡大在村生れ大江聰野三智造(三三)……七圓二三十錢……たり(七川)……げを强請するため他の鑛夫多數を煽動して事務所を襲撃し同所事務員今野菜次、橋本安一の兩名より謝罪狀……るも不服として京城覆審法院に控訴したるも十四日控訴棄却となれり

◉棍棒で毆り殺す

江原道鐵原郡乃文面梧塘里李在明妻張氏(三八)は夫の弟鄭在洙夫妻と同棲し常に在洙の妻鄭氏と不和の間柄なるに十月六日鄭氏が張氏の子供を手荒く扱ひたるより張氏は鄭氏を詰りたるに却つて食つて蒐り反抗したるを以て張氏は一時に憤怒し棍棒其他手當り次第の物を持ちて鄭氏を亂打し心臟痳痺を惹起して遂に死亡するに至らしめたる事件は京城地方法院に於て懲役三年の處分となれり

◉僞證文で詐欺

京城黃金町三丁目居住京畿道龍仁郡遠三面沙岩里尹哲淳(三八)は昨年四月中實兒尹學淳が死亡したる際兒の宅に赴き尹學淳が生前龍仁郡守の官印を僞造して作成せる地所三萬四千七百七十四坪の所有權證明書二通を發見したるを以て之を持ち歸り一通を京城貫鐵洞金鴻泰なる者に二百餘圓の借金の抵當に押し込み尚一通を以て大金を騙取せんとして遂に發覺し檢擧せられ京城地方法院にて懲役一年の處分となれり

◉餘罪發覺

岡山縣淺口郡生れ前科一犯可兒寬市(三六)は勳七等功七級の肩書あり青森縣弘前市生れ工藤常八郎(三二)と共に平安南道廳雇員なりしが放蕩の末十月二十四日兩人共免職され其後詐欺事件にて平壤警察署に留置取調中該犯罪以外に可兒は八月中旬平壤大和町福田時計店に於て銀側懷中時計一箇價格十六圓五十錢のものを詐欺し同日泉町濱尾質店に金六圓に入質して費消し工藤は八月二十六日福田時計店より價十八圓四十錢の懷中時計を可兒同樣手段を以て詐欺し其他餘罪ある事發覺し去る十二日檢事局に送らる(平壤)

◉漢江の砂洲から屍體

高陽郡纛島面雌馬場里南端の漢江岸の砂洲中より九日午前腐爛したる鮮人男の屍體を發見し京城憲兵分隊より係官出張檢視せしが推定年齡四十歲位のものにして全身腐蝕し居れるが多分九月十日頃の洪水の際溺死したるものなるべく屍體は面役所に引渡し假埋葬に附したり

◉納豆の發賣

京城竹添町の野田七五郎、谷淸松の兩氏は從來納豆の製造販賣に從事しつゝあるが近回一層精勵發賣すと

◉西本願寺報恩講

若草町西本願寺にては去る十日より十六日迄宗祖親鸞聖人の報恩講を執行し尚ほ十六日は聖人入滅の命日なるを以て十五日逮夜より十六日迄毎日午後丁寧なる勤式あり十五日逮夜は一般參詣人へ御齋を出し同夜は親鸞聖人御傳鈔を拜讀し引續き布教使の說教あるべしと

京日案內

普通　一回前金一番外六十錢　二回毎に三十錢　一回前金一回毎に一五錢增　無割引　▲申込後中途掲載中止の節は料金返戻せず

◉記者及外交員採用　希望者履歷書携帶本人來談あれ月收五十圓以上確實　花園町一二二　中央金物新報支社　720

▼立川、史談、武士道文庫全部新荷著　京城本町二丁目　ウツボヤ書店　591

◉牛乳配達夫入用　但し市內に確實なる保證人を要す　京城西大門外金華山麓　東洋牧場　719

產婆　漢江通十六番地鐵道病院前　取次電話龍山六五八番　前田きさ　717

外交員募集　日華生命保險總代理店　本火災保險代理店　京城永樂町二ノ六〇　德田商會　電二三二五番　715

◉事務所向貸家　支那領事館通り　希望の方は電話一一四〇番へ　716

◉古本熱心高價買入　◉是非御試賣を乞ふ　◉電話二七八一番　▲御報參上　▲本町四　▲書肆　群書堂　713

◉店員入用　藥商　京城吉野町一丁目九一　漢陽堂　709

▲外勤員特別優待懸賞募集　京城若草町百六番地　西村商會　報國公債株式會社京城總代理店　708

◉古著古服マント類大安賣　何古著類なんでも御不用品高く買ます　太平通二丁目八九　松本古著店　693

◉貸家　土地高燥日當良く諸設備完全の平家建最上等貸家二棟　家賃卅三圓卅五圓　電話一二九番　701

番外　勸業債劵高價買入　並に月賦濟胡販賣　京城太平通二丁目(電話一八三二番)　商業銀行信券部

店員入用　但十七八より二十二三歲位の者市內に確實の保證人二名を要す　旭町二丁目　後藤酒造場　721

產婆　電話變更　鍾路通一丁目四五　電話一三七二　藤井市郎共用　小倉松野　718

二十歲位と十三四の力行的少年を求む夜間勉學の自由を有すべし　丁藤辨護士　704

狂犬病豫防液無料注射　入院隨意　京城明治町一丁目　小川家畜醫院　703

◉京城春川間每日午前八時出發　自動車賃金片道四圓　◉南大門通一丁目　電話二一九番　主務金正淵　廣橋自働車組　630

◉銃砲火藥獵具　京城本町三丁目　電話二〇九二番　增戶銃砲店　488

毛皮なめしに並仕立　鳥獸剝製調進販賣　京城本町二丁目　電二〇六五　檜元商行　612

京城春川間乘合自働車　賃片道四圓　◉京城水標橋通り　京城發前八時　◉春川發前八時　電話武者參八番　支配人松田壽男　春川自働車商會　631

恩給年金月利壹分即金立替　利子前引せず確實掛引なし秘密嚴守　京城若草町通中央郵便ポスト前　西村商會　639

恩給年金立替　即時取引　退隱料一切　利子年一割　京城櫻井町(大正館前)元祖　博多屋本店　661

新案特許　電燈昇降自在器　▲家庭に工業家に事務家に必携　價五拾五錢　特約店募集　京城黃金町　電話一四二　電氣機械器具各種電球御商　巴商行　674

たんをさりせきをしづめ　ぜんそくに特効あり

今です！

たんせきぜんそくの流行期は。凡ての人が警戒すべき氣候激變の時は。今です!! この時期には極めて強壯な人でも風邪を引きがちですが夫れ〇〇たんせきとなりぜん〇〇そくとなると決して油斷はなりません、**油斷は大敵**　わけてたんせきぜんそくは最も緊要な呼吸器を侵し遂には肺炎、肋膜炎等に轉症し易いから輕症の內に呼吸器病一切の專門藥龍角散の服用が**最も肝要**です　又數年の難症に惱む人も怠らず服用あらば氣分は爽快となり病惱は日々に薄らぎ終に治癒するに至る

登錄商標　**龍角散**

主治効能

△たんにて常にゴホンゴホンと惱む人
△ぜんそくにてゼイゼイいき切する人
△せき頻に出て夜半オチオチ眠れ兼る人
△流行感冒より起るたんせきの人
△肺病にて常に力なきせきの出る人
△たん臭氣を帶び時々血の交る人
△小兒百日せき又はしかせきの人
△音聲のかれ咽喉の痛み總て呼吸器疾患のたんせきに頗る卓効あり又常々音聲を使用する人用ゆれば咽喉を滑かにし音聲のつかれを補ふ事奇妙なり

分量	價	郵送料
二日分	十錢	二錢
四日分	二十錢	二錢
一週間分	三十錢	四錢
二週間分	五十錢	四錢
一月分	一圓	四錢

取次　全國各藥店にあり　賣切の節は本舖へ御注文を乞ふ代金引替は御斷り郵券代用不苦

東京神田區豊島町　本舖　藤井得三郎　電話浪花二一四三四　振替貯金東京九一

女鳩

渡邊默禪

(一六〇) さしむかひ

住江の言ふとは強ち片意地から出た秀子への面當とばかり取れなかつた。悲痛の叫のうちに十分の理窟がある。主張もある。その心を和げようとするには、今まで受けた腹を綺麗に雪がせなければならぬ。恥を雪がせようとするには、秀子をして心からの謝罪をさせなければならぬ。謝罪をすべきが至當である。で、鳩子としては此事も問題のうちに加へて、秀子に言ふだけのことを言つて、是非とも住江の言分を立てさせて遣らなければならぬ場合になつた。爾うすることが住江の苦衷に報いる方法であり、又た正しい考へを立徹す道であるのだ。

秀子は部屋に寢てゐるといふので急ぐにも及ばないと思つた彼女は、先ず旅裝を解いて平常の衣裳に著かへてから、久々で清潔な浴室の檜の香に浸つた。それからお花と一緒に時遅れの夕餐を濟まして、土産物を撰分けたりなにかすると、最う十時過になつた。

秀子は此頃から西洋館の方へ部屋をうつして、人の出入を嫌ふやうに扉も閉勝であつた。鳩子はその部屋へ訪れると、中から鑰をかけてあると見ゑて、押しても開かなかつた。

『もし、姉さま。姉さま』。

輕く戸を敲いて呼ぶと、中で

『だあれ?だあれ?』

と返辭をする秀子の聲からして、最う辣々した調子だつた。

『私し、私しよ、姉さま。實は先刻歸つてまゐりましたんですけれども御疲なつてらつしやるといふから、遠慮してゐましたの。ちよつとお開けなすつて下さいな。また御寢なすつてらつしやること?』

『あら、鳩さんなの。まア』始めて知つたといつた風に仰山らしく言つて『待つて頂戴な、今開けるから』ごそごそと何か音をさせて扉の傍に寄つて來た。『私、この頃から加減が惡くつてね。それで引込んでゐたのよ』

頓て扉を開けた。鳩子はちよつと目禮して室に入つた。秀子は何物かを怖るゝやうに廊下の方を不安らしく覗いてから、又ばたりと閉切つた。

權色の窓紗を深く曳いた室のなかは天井の花電燈で晝のやうに明るかつた。ピアノを枕の方に見せて閉に横たへたテレンブ張の美しい寢臺の上には、空彈の殼になつたリオン綿の華やかな蒲團だの、毛布だの、絹の皮だの、空氣枕だのがだらしなく亂れ合つてゐた。讀本臺の上に銀の枠に錯つた小さな寫眞が飾られたのを見ると、誰だか若い男の姿だつた。その側にカーネーションの花が萎れたまゝ一輪差に俯垂れてゐた。

『お歸んなさい』。秀子は氣のない挨拶をして寢臺の上にどんと腰を落した。そして布團を押のけると、枕の下から綺麗な裝幀をした小形の本が出た。それをそつと後にやつた時に鳩子の目にちらりと見たのが、何とか情話といふ題字だつた。此頃よく賣れるとか聞いた例の通俗文學だなと彼女は思つた。

『御機嫌よろしう』につこりして前の脇掛椅子にかゝりながら『どこがお惡いんです姉さま。お風邪氣?』

『ね、何だかねね、頭痛がしてならないのよ。妙にくさくさしてさ。やつぱり流行の神經衰弱なんだらう』見得に纖い指で顳顬のあたりを押へた。『お父樣は如何なすつて?御一緒にお歸り。それとも跡から』

『あら、御存知ないんですか』

『いゝえ、些とも……今日は朝ッから室に寢てゐたもんだから……』

『爾うですか。御一緒にお歸りなさいましてよ、姉さま。此前に生駒さんからお話がありましたでせう。お怪我をなさいましたとを』

『あゝ、そんな話ね。甚麼したつてんでせう、眞個に』。一語冷然。もう前の秀子ではない。

衛生と滋養に富む 人蔘キャラメル 年玉は南大門

名物 六太郎餅 驛前 電話二三六七番

十夜吟 浮碧樓

霜、足袋

大霜の晝からの湖の澁さ
温突家壘まる霜晴れ榎
甕から足袋脱ぐ机のみだれ
母親に足袋二三足は赤き　坡柳

○

さ動く商人の筆よ霜
風音のせぬよ足袋かげれり　烏堂

○

草の霜男女の墓なる
霜月師走と今年も
霜の一本立の梧二本
足袋脫ぎし時の足の感覺

新刊紹介

▲朝鮮彙報(十一月號) 總督の更迭大岡江州近の史蹟(黑板博士)米國の郵便概況(天外)遞信事務官)等の外布教狀況、各道行政區域名稱一覽、大阪到朝鮮貿易、染料たる楓葉の輸出、果樹栽培指針、遞信事業より見たる朝鮮名道の發展、乞丐浮浪者取締の狀況 朝鮮に於ける稚蠶に就て、滿洲通貨一斑及び地方通信、雜件其他總督敘任及び辭令統計等を收む(二十五錢朝鮮總督府)

▲朝鮮及滿洲(滿蒙號) 旭邦の滿蒙雜感、淺寺内總督迎ふ長谷川新總督、滿洲の人物印象記、服部博士の支那を對象としたる日本及び米國、建部博士の社會學上より見たる支那の運命和田銕一局麥事の滿蒙鐵道統一私論、支那人と鐵足古川來風の蒙古探險記及び長久我博士谷川新總督に對する聲、海聚閑叟と奉天中心論、朝鮮より見たる滿洲等の問題に就て立花、鷲尾大中畫太郎、鳥居重事等の…

士の說其他數十の記事皆滿鮮在住者必讀の好文字(一本號二十五錢京城旭町二ノ鮮滿社)

▲滿蒙農報(十一月號) 南滿洲及び東蒙古に關する條約の利權に基き其の開發は農本の改善よりの外なしとの主張の下に發刊せるもの南滿洲農業畫、花園平入白山會講、滿洲農事傳達其他を收む(十五錢奉天小西邊門外農商東入る其社)

▲大陸(供典奉祝號) 內容特に緊張充實せるを見 寺内內閣と對支策(山田主筆)德五郎外二氏の日支親善論數名氏の使ふ外使はる、人大内大連民政署長外五氏の面の表裝與等初郎氏其他の滿鮮實業家對浮田博士其他の社會並に家庭の讀物等の外小說文苑等頗る熊に賑なり(本號に限り三十錢大連浪速町三の一〇八其社)

▲教育の實際(小學教育保育衛生號) 觀念上實験、眼科醫の見たる學校衛生 樂衛問題研究と兒童の衣服平均運動主義學校兒童の健に關する重 問題其他學童保健衛生に關する教育當事者必讀の好參考資料たるべし(一號に限り五十錢東京市日本橋區本石町教文館)

▲學校教育 臨時增號 本號には主として戰後の教育に就て各種の意見を發表せり曰く戰後教育(卿 博士、發原、作山兩文學士)武洲博國文學士國民、神の陛治と國語教育(友枝調澤等の外見るべきもの多し(三十六錢東京市日本橋區本石町寶文館)

▲大阪銀行通信錄(二三〇) 預金五百萬圓以上の銀行調、英國戰時財政營見(小川鄉太郎)水野淳二氏の內閣論(小川法學博士の經濟國民論)等を揭ぐ(大阪市西區南堀江一の二九大阪銀行集會所)

▲東方時論(十一月號) 社 この支那革命運動に就て宮野博士『時論の得眉々民性の理解さ日支親善』の外關博士『大戰後の世界』等の外ル・ツハ原著三總五郎譯の經濟上及び外交上より觀たる大戰論は百頁に亘る大著の好評嘖々(三十錢東京市芝區加賀町二の五其社)

▲評論之評論(七週年記念號) 所謂成金に就て『宮鑒』を信む『教育上の時局に對する吉備』(雜山)『大宰齋』を論し『海本主義の提唱』に及ぶ等『杆論』(其他)に關すべき戰後の財界『早川千吉郎』內閣と其の藩閥と黨中心『將來の對外政策』地方の實情を報ずる文等各版九州朝鮮の實況等に關する記事等も多し(本號に限り三十錢東京市赤坂區溜池町三〇其社)

▲養鷄指針(十一月號) 九錢大阪市南區生野國分町四 養鷄會

▲日の丸(十二月號) 八錢東京府下瀧野川町西比丘子文教社

▲婦人週報(二の四五) 四錢五厘東京市牛込區市ヶ谷田町二の一七其社

▲相談之友(十一月號) 五錢東京市本鄉區駒込千駄木町一八六其社

▲大阪仕入案內(十一月號) 十五錢大阪市西區阿波座南通三十四同所發行

▲實務雜誌文書(十一月號) 十錢東京市京橋區南傳馬町一の一文書會

▲養鷄と園藝(十一月號) 十二錢大阪市東區味原町一〇二其社

▲保險新聞(六の一七) 九錢東京市神田區北神保町八其社

▲カット畫報(十一月號) 十錢東京市京橋區木挽町二の一三其社

▲旭町數段屋 其の力の飼犬は十三日の朝も十歲ばかりの小學生徒の足に噛み付いたのを同家の女共は嬉しがつて見て居つた小供は通りがかりの紳士が助けて傷口の手當などを爲て居つたが、いくら景氣が好いからつて犬をけしかけて嬉しがつてるのは酷い(近隣者)▲本町一丁目の某時計店は小生が時計の修繕を依賴した所一箇月位も掛りて完全な修繕も出來ず最後にこれなら大丈夫ですと云ふ時計が一晝夜に三時間半も違ふこんな大丈夫は當にならぬ(旭町困る生)▲去る十日新町附近を四十七八乃至五十歲位と見受けらるゝ一人の大男が家の樣子を見ては這入り來り佐賀の大師さんの御札なる故是非受けろと云うて押賣り的に歩き廻つて居りましたが婦女子獨りの留守番と見た時は忽ち大入道の本音を現はし大に出齒らんと致したる風ありとて噂さがありますみなさん御注意をなさい(覗見生)

こゑる藥
身體やせて種々療養効なくお困りの方郵券三錢封入申込まば胃腸を健全にし害なく身體肥滿となる妙藥の說明書呈
●東京市麻布區三河臺町小川藥院

M印 品質本位 ミヤリ
大阪唐物町四丁目飯田商店

花柳病專門外科
梅毒●淋病●尿道生殖器病 睾丸病●痔●肛門病 皮膚病 婦人病●神經衰弱 其他手術每日
六〇六注射包皮 ●入院隨時
●診察無料
京城長谷川町南大門通典銀裏 司生堂醫院

結核專門 古賀病院

ヒドイたんせきも
タンセキ改良新劑
呼吸器散 呼吸器丸
本劑は新高貴の祛痰鎮咳の特効劑を配合せるを以て如何に重き呼吸器病にても一週間程試みよ！！タンを拔りセキを鎮め胸苦しきを和らげ安眠の効を奏する事確實なり。
肺病豫防劑
かゝる時に効あり
●息苦しく胸痛む時。●咳出て夜眠られぬ時。●たんに血の交る時。●痰澀れ出でざる時。●のんど腫れ痛む時。●たんせき切れ難き時。
本鋪 大阪心齋橋 東京銀座 丹平商會藥房 全國到る處の各藥店にあり
便 十錢 十五錢 三十錢
不思議の效驗を奏す

人體の肥料
●晚秋から冬中殊に適切
メキメキ肉附き元氣附き打つて變つて强壯體!!
●弱い人頭や體を使ふ人
▲醫界の推奬▲ ▲萬人の賞用▼
次亞燐 滋養 大関
試用四日分 小瓶五十錢 中瓶八十錢 大瓶一円卅錢 特大瓶二円也
●賣捌は全國各藥店にあり
本舖 大阪道修町 藥劑師 小西久兵衛

牛乳の數倍

男のひみつ病
●專賣特許第二七九二四號、同第二九二〇一號、同第二九二六九號の眞空療法器と包皮自然治療器は共に最新發明の輕便自療器にして之を自宅にて秘密に使用せば生殖器の短小、包皮、陰萎、早漏、遺精、夢精、神經衰弱等は頗る手輕に治るハカキで申込めば圖入り明細書を無代送呈す
(一京寮第特許品か新案特許品かに深く御注意なさる)
東京京橋本材木町三ノ廿五番地 東京療法研究所
大阪市北區北森町一番地 大阪新療法研究所

平壤大和町自動車商會隣(電話六一一)
齒科診療 入院隨意
岡齒科醫院
院長 齒科醫 岡友三郎

優等清酒
一鶴
京城永樂町二丁目
發賣元 本莊酒店
電話六五四番 振替京城六二〇番

當銀行ハ預金、貸附、爲替等一般銀行業務ヲ確實親切ニ取扱申候
京城 朝鮮銀行
振替貯金口座 京城三三三番
電話(三二一、一二〇六、二三三二、一二六〇、一六一、一六二一、一三)
支店 東京、大阪、神戸、平壤、仁川、元山、大邱、釜山、鎭南浦、群山、木浦、馬山、羅南、會寧、新義州、安東縣、奉天、大連、長春、開原、四平街、哈爾賓、營口
出張所 右ノ外内外主要ノ地ニ爲替取引先有之候

イケダ小兒病内科醫院 池田季雄
京城三越吳服店前へ入る旭町四丁目 電話(醫院一二三四番 自宅八八〇番)

汽船釜山出帆廣告

○門司、神戸、大阪行
○小倉丸 十一月 日後五時出帆
○立神丸 十一月 日後五時出帆
○元山、清津、浦鹽行
○小倉丸 十一月 日後十時出帆
○立神丸 十一月 日後四時出帆
○元山、西湖、新浦、城津、清津行
○第三共榮丸 十一月 日後六時出帆
○門司、宇品、神戸、大阪行
○第三平丸 十一月廿八日後六時出帆
佐須奈、嚴原、壹岐、博多行
○天草丸 毎月一日、廿六日、十日、十四)午後十時出帆
釜山港立新町 本船取扱店 大池回漕部

朝鮮郵船出帆

京城南大門驛前 京城荷客取扱店 松原運送店(電話一七〇番)
電話長一九五二番・二〇三三番
(仁川荷客取扱店並に東洋汽船、日本郵船、大阪商船各代理店)

○全羅丸 十一月十六日 ○京畿丸 十一月廿六日 ○黄海丸 十二月二日 ○咸鏡丸 十一月廿三日 釜山發
門司より釜山各港寄港雄基間航路
○咸鏡丸 十一月十六日 ○平安丸 十一月廿二日 ○鎭城丸 十一月二十日 元山發
元山より各港寄港雄基行
○第一鎭海丸 十一月 日 ○忠清丸 十一月廿二日 ○平壤丸 十一月十三日 元山發
城津浦項浦項浦通行複航釜山より門司及び長崎行
○益德丸 十一月十七日 釜山發
甘浦、九龍浦、浦項各港寄港鬱陵島行
○江陵丸 毎日 ○江原丸 毎日 釜山發・浦項發
長生浦方魚津寄港
○三浦丸 十一月十七日 釜山發
長承浦、統營、巨文島、濟州島各寄港
○濟州丸 ○慶寶丸 ○巨濟丸 毎日 釜山發
各港經由統營丸 水行(日曰一回水浦行)
○統營丸
○順天丸 三日目毎ニ 木浦發(釜山行に接續)
○慶興丸 十一月十九日 木浦發(各港經由濟州島行西廻)
○慶興丸 十一月廿二日 木浦發(南多島、海列島行、月三回)
○公州丸 十一月十六日 木浦發(各港經由濟州島行(東廻))
○宗信丸 十一月十七日 仁川發(海州他各港經由、瓮津又は白翎島行)
○江原丸 十一月十八日 仁川發(清島、大連、芝罘行)
○麗水丸 十一月廿一日 ○晉州丸 十一月十七日 仁川發(各港經由木浦行)
○全州丸 ○南陽丸 毎日午前 仁川發(江華島、桐橋島、海州行)

大阪商船仁川出帆

●外航路所属航路遠洋航路を除く外の期日は五分り以て連絡切符發賣仕候

○群山、木浦、釜山、門司、神戸、大阪行
○安東丸 十一月廿三日
×濟州丸 十一月二十日後五時出
×天智丸 十一月廿八日
○木浦、釜山、鬼の浦、長崎行
×信濃川丸 十一月廿五日
○信濃川丸 十二月十三日 正午出帆
×群山、釜山、福岡行
○群州丸 十一月十九日
△福州丸 十一月廿八 後二時出
△鎭南浦、神戸、大阪行
○天智丸 十一月十七日 正午時出
×群山、神戸、大阪行
○須磨丸 十一月十七日後四時出
○鎭南浦、大連行
×信濃川丸 十一月廿日
×信濃川丸 十二月八日 後二時出
○鎭南浦大連行
×鎭南丸 十一月廿二日
×龜州丸 十一月 日 正午出帆
○鎭南浦行
△濟州丸 十一月十七日 正午出帆
○清津、浦鹽行(元山出帆)
▲月八城津西ニ津ニ寄港浦潮不寄港
▲安平丸 十一月十六日
△宮島丸 十一月廿一日 後二時出
○上海、基隆、打狗行(大連出帆)
基隆丸 十二月一日午後四時出
淡北丸 十一月 日午前六時出

御注意 ●南滿洲鐵道及び南滿洲鐵道の各驛ニ切符發賣仕候●所乘船の節約一時間前に無賃送可致候●×印は積荷客は貨物は一時間前に無賃送可致候△印は船客取扱所
切符發賣所 大阪商船會社仁川支店 電話二一番二〇五番
京城切符發賣所 内鮮運會社支店 電話七〇八番
●中國四國沿岸各港船客に對し一割引を以て切符發賣仕候

共同汽船仁川出帆

阿波共同汽船株式會社 第○共同丸(關東都督府命令航路)
○芝罘、大連行 十一月十二日入港 十一月十三日正午出港
朝鮮鐵道主要驛にて神客聯絡輸送可仕候 大連、青島行は定期船接續荷客共直航船と同運賃にて通し輸送取扱可仕候
本町四丁目(電話一七三番) 仁川代理店 野口商會
元山代理店 田口回漕部(春日町(電話二四〇七番))
京城取次店 南大門(電話二六八、二〇一七) 河村運送店

尾崎汽船仁川出帆

群山、木浦、釜山、下關、神戸、大阪行
○大有丸 十一月二十日後四時出帆
○秀吉丸 十一月廿六日後四時出帆
○君代丸 十一月廿八日後四時出帆
○神代丸 十一月十八日後四時出帆
仁川海岸通三丁目 電話五十九番 高杉回漕部

日本郵船仁川出帆

○大連、太沽、牛莊行
相模丸 十一月十二日 未明出帆
高砂丸 十一月廿日 未明出帆
三河丸 十二月一日 未明出帆
仁川海岸町 電話十二番 堀回漕部

金泉醴泉間自動車發著時間

上り	一番	二番	下り	一番	二番
金泉發	前九·〇〇		醴泉發		
龍宮著			咸昌著		
咸昌發			尚州發		
醴泉著			金泉著		

金泉織店自動車支部 金泉電話四八番
荷物運搬仕り候

大邱浦項間自動車發著時間

大邱(發) 浦項著 永川 阿火 慶州 安康 (時刻略)
大塚農場自動車部 電話七番
大邱出張所 電話一一七番

富の道しるべ 山縣五十雄 村上唯吉共著 價十五錢 郵税二錢
京城太平通 振替三〇〇番 京城日報社代理部

百兒 大阪期米(十四日)

▲十四日後場(各地滿勝の意外な強味) 寄付 一五、二五 高值 一五、二八 安値 一五、〇五 大引 一五、二〇

▲後場… 六十錢と押したるが押目は買物多く六十二錢と押したるが大阪西筋八十九錢となり一面の景況…

▲墨能く賣る

▲能く買ふ

▲⊕の商内

▲現物界